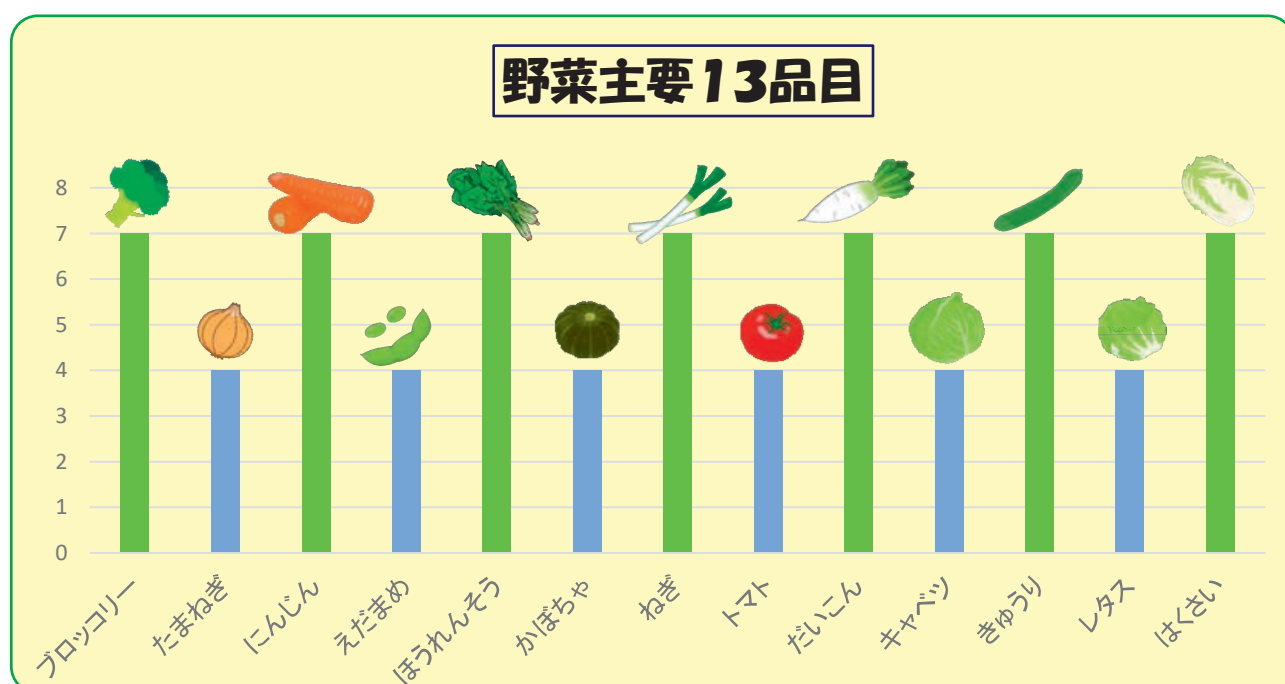


野菜13品目に関わるデータ整理・分析

野菜流通カット協議会設立10周年記念式時配布



【発行】 野菜流通カット協議会

〔事務局：一般社団法人 日本施設園芸協会〕



野菜13品目に関わるデータ整理・分析

目 次

頁

対象品目	重点品目・主要品目・指定野菜・特定野菜	P 1
① ブロッコリー	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P 2
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P 3
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P 4
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P 4
② たまねぎ	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～3位】、【4位～10位】	P 5
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P 6
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P 7
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P 7
③ にんじん	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P 8
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち維持傾向・減少傾向】	P 9
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P10
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P10
④ えだまめ	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P11
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち減少傾向】	P12
	国内生産量+輸入量の推移	P13
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P13
⑤ ほうれんそう	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～3位】、【4位～10位】	P14
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P15
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P16
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P16
⑥ かぼちゃ	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P17
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち減少傾向】	P18
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P19
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P19
⑦ ねぎ	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～3位】、【4位～10位】	P20
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P21
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P22
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P22
⑧ トマト	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～3位】、【4位～10位】	P23
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P24
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P25
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P25
⑨ だいこん	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～3位】、【4位～10位】	P26
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P27
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P28
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P28
⑩ キャベツ	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P29
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P30
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P31
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P31
⑪ きゅうり	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P32
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P33
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P34
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P34
⑫ レタス	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P35
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P36
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P37
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P37
⑬ はくさい	都道府県別生産量(収穫量)の推移【1～2位】、【3位～10位】	P38
	都道府県別生産量(収穫量)の推移【11～20位のうち増加傾向・減少傾向】	P39
	国内生産量+輸入量及び1人当たり購入数量の推移	P40
	国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格等	P40

野菜13品目に関わるデータ整理・分析

加工・業務用

■重点7品目: ①ブロッコリー【特】、②たまねぎ【指】、③にんじん【指】、④えだまめ【特】、⑤ほうれんそう【指】、⑥かぼちゃ【特】、⑦ねぎ【指】

■主要6品目: ⑧トマト【指】、⑨だいこん【指】、⑩キャベツ【指】、⑪きゅうり【指】、⑫レタス【指】、⑬はくさい【指】

※【指】:指定野菜、【特】:特定野菜

2025年(令和7年)

対象品目

農林水産省が選定した加工・業務用野菜の重点7品目に加え、主要6品目の合計13品目のデータ整理・分析を行う。

	加工・業務用野菜 重点品目	加工・業務用野菜 主要品目	指定野菜	特定野菜
① ブロッコリー	●			○
② たまねぎ	●		○	
③ にんじん	●		○	
④ えだまめ	●			○
⑤ ほうれんそう	●		○	
⑥ かぼちゃ	●			○
⑦ ねぎ	●		○	
⑧ トマト		●	○	
⑨ だいこん		●	○	
⑩ キャベツ		●	○	
⑪ きゅうり		●	○	
⑫ レタス		●	○	
⑬ はくさい		●	○	

※ 「指定野菜」とは、全国的に流通し、特に消費が多く重要な野菜。

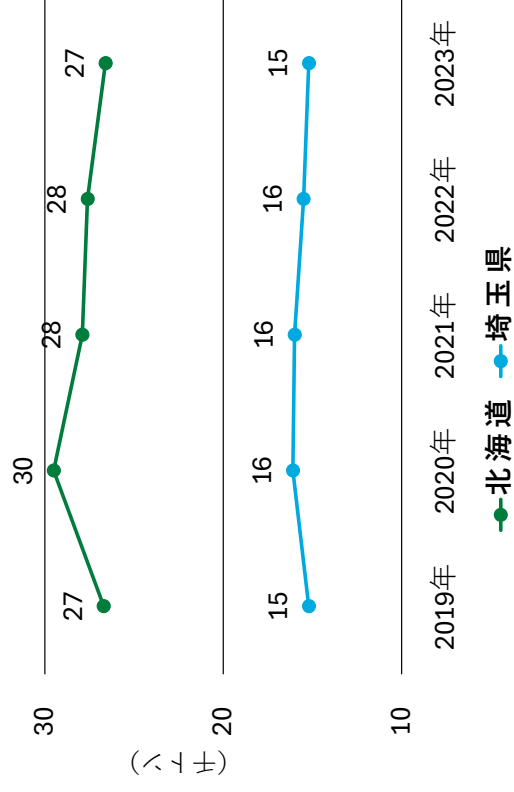
※ 「特定野菜」とは、国民生活上で指定野菜に準じる重要性を持つ野菜。

① ブロッコリー

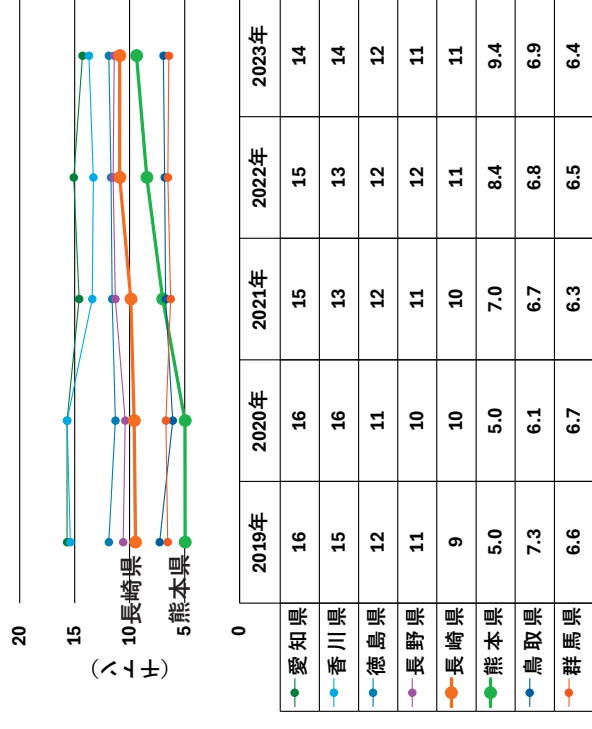
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「北海道」「埼玉県」「愛知県」「香川県」「徳島県」の順となっている。直近3年において、上位の「北海道」「埼玉県」は僅かに減少傾向となっている。

3位から10位の都道府県をみると、10千トン前後規模では「長崎県」、5千トン前後規模では「熊本県」が増加傾向となっており、「熊本県」は、4年前と比較して直近2年で倍近く生産量が増加している。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

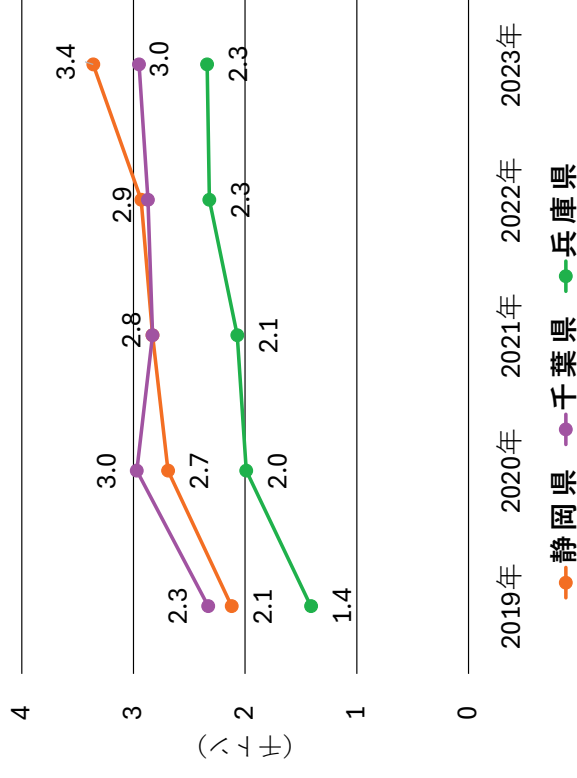
① ブロッコリー

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「静岡県」「兵庫県」が直近5年で1千トン規模で増加傾向にあるほか、「千葉県」が僅かに増加傾向となっている。

一方で、「福岡県」「鹿児島県」では直近5年で1千トン規模で減少傾向となっている。「東京都」は維持の年もあるものの僅かに減少傾向となっている。

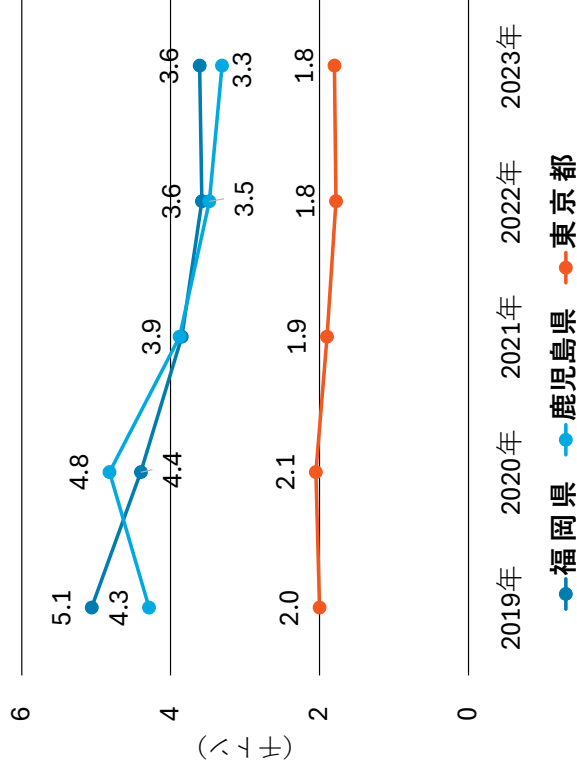
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】



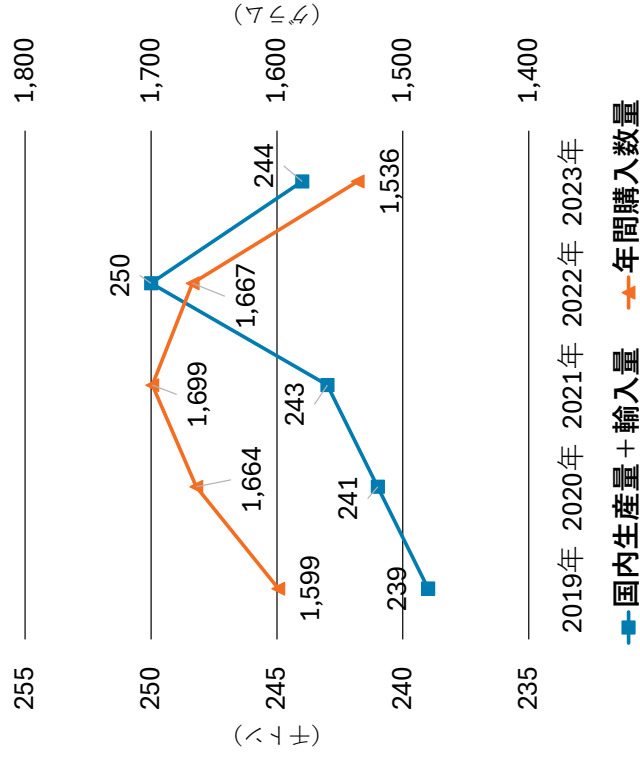
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

① ブロッコリー

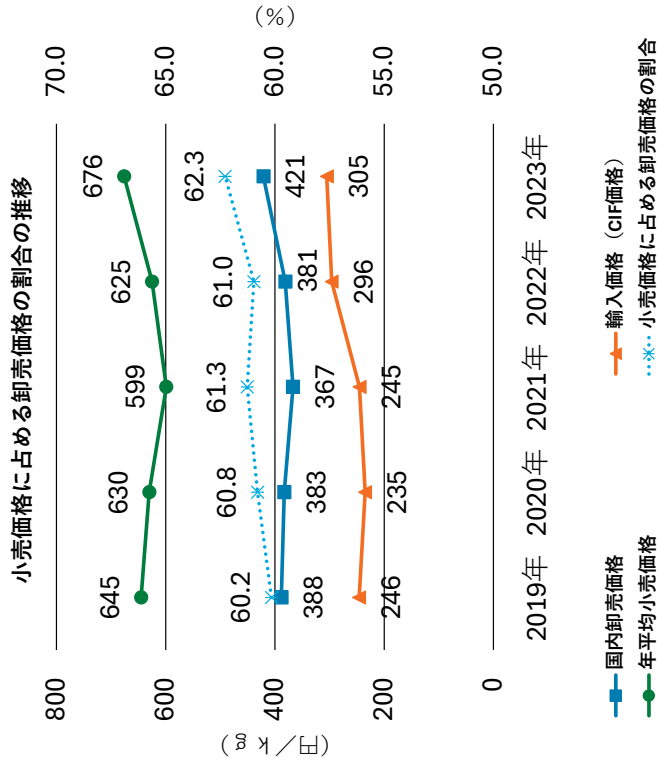
国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近では減少しており、直近5年では2022年を除いては、概ね1人当たりの購入数量は比例傾向にある。

価格については、直近3年でいずれも増加傾向にあり、2021年に小売価格に占める卸売価格の割合が僅かに増加したものの、直近2年では比例傾向にある。

国内生産量 + 輸入量及び1人当たり購入数量の推移



国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格（東京都区部）
小売価格に占める卸売価格の割合の推移



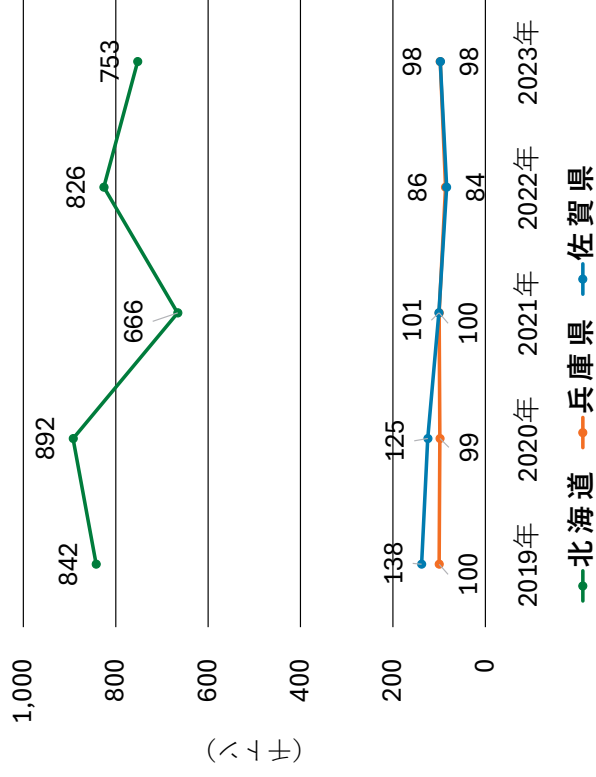
※ 出典：農畜産業振興機構「パシ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く))、速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

② たまねぎ

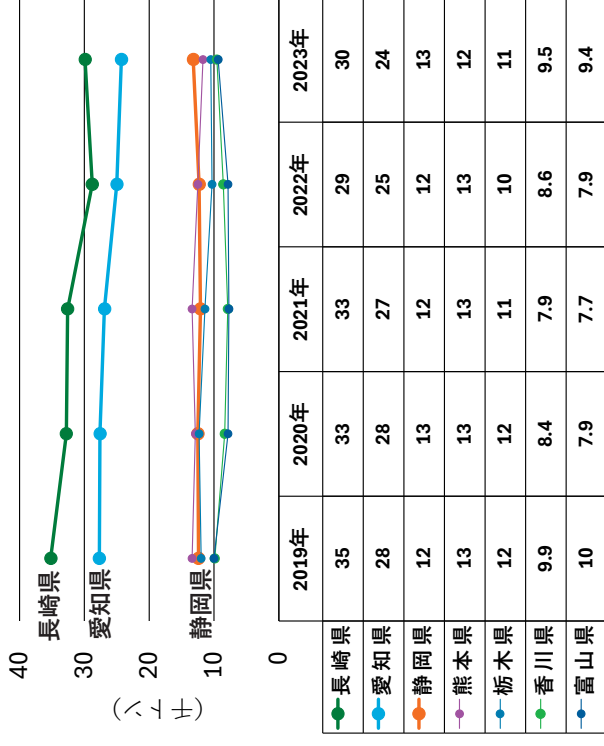
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「北海道」「兵庫県」「佐賀県」「長崎県」「愛知県」の順となっている。直近3年においては、最上位の「北海道」は毎年100～200千トン規模で増減している。次点の「兵庫県」は横ばい、「佐賀県」は僅かに減少傾向となっている。

4位から10位の都道府県をみると、35千トン前後規模では「長崎県」「愛知県」が減少傾向となっており、10千トン前後規模では「静岡県」が僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-3位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【4-10位】



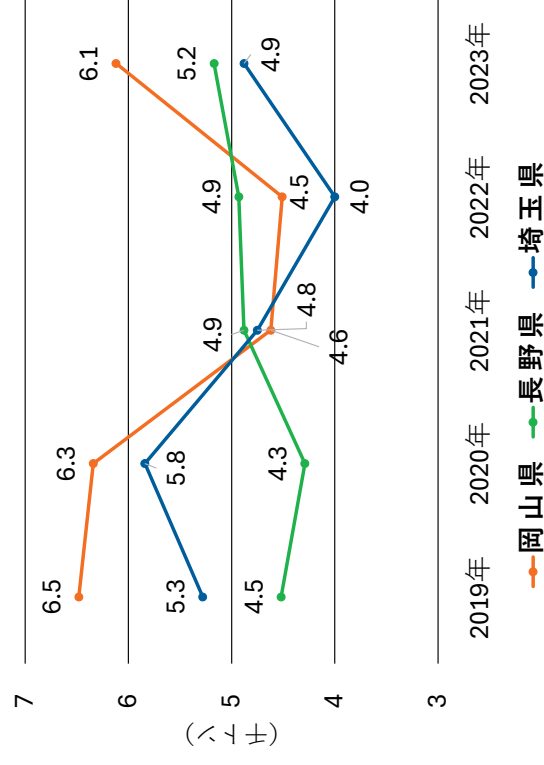
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

② たまねぎ

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「長野県」が増加傾向となっており、「岡山県」「埼玉県」は直近5年で増減があるものの、直近1年では1千トン規模の増加がみられる。一方で、「愛媛県」は2021年を除いては1千トン前後規模で減少傾向にあり、「千葉県」「和歌山県」では維持や増加の年もあるものの、傾向としては減少傾向となっている。

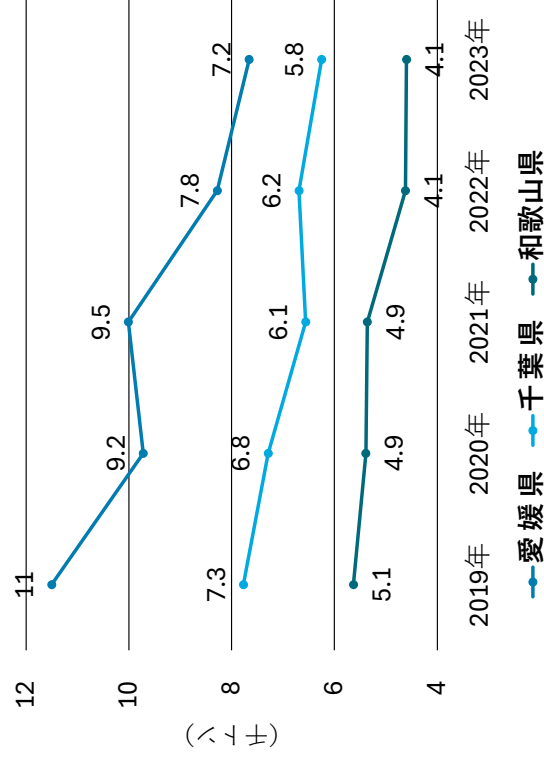
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

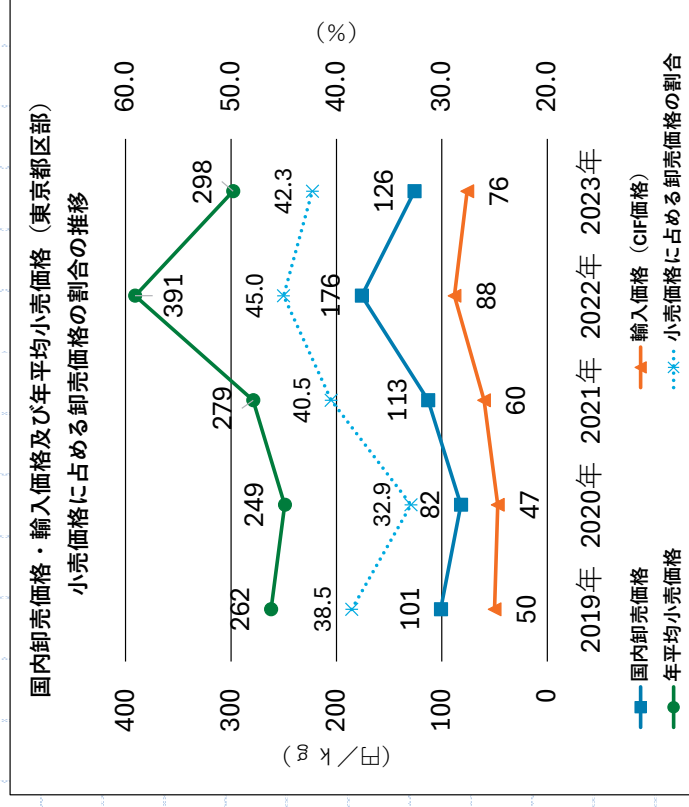
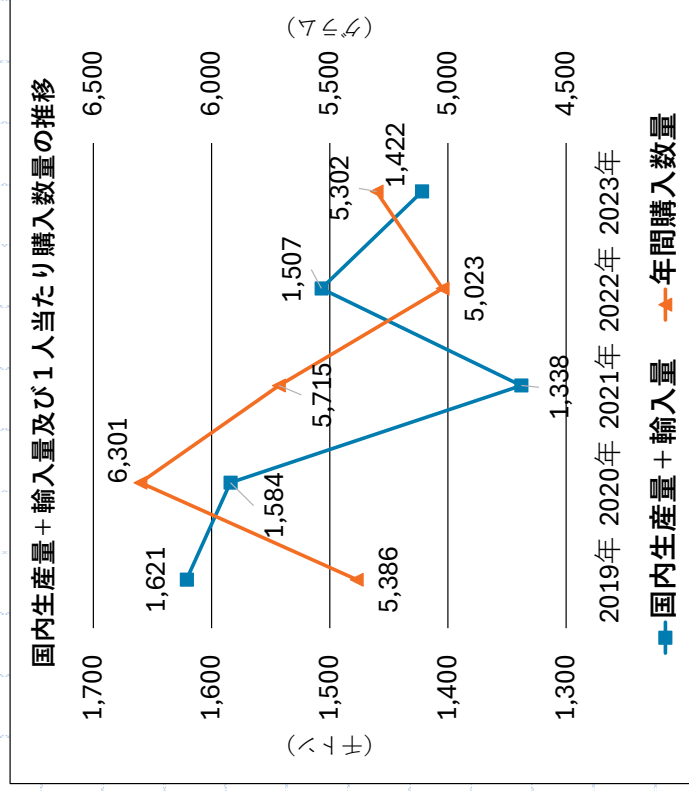


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

② たまねぎ

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、1人当たりの年間購入数量との比例傾向はみられない。たまねぎは貯蔵により年間を通じて流通することから、2021年の不作の影響が需給状況に大きく影響しているとみられる。

価格については、いずれも2022年まで増加傾向にあるものの、直近1年では2022年の大きな上昇率から減少し、小売価格に占める卸売価格の割合も概ね比例傾向にある。



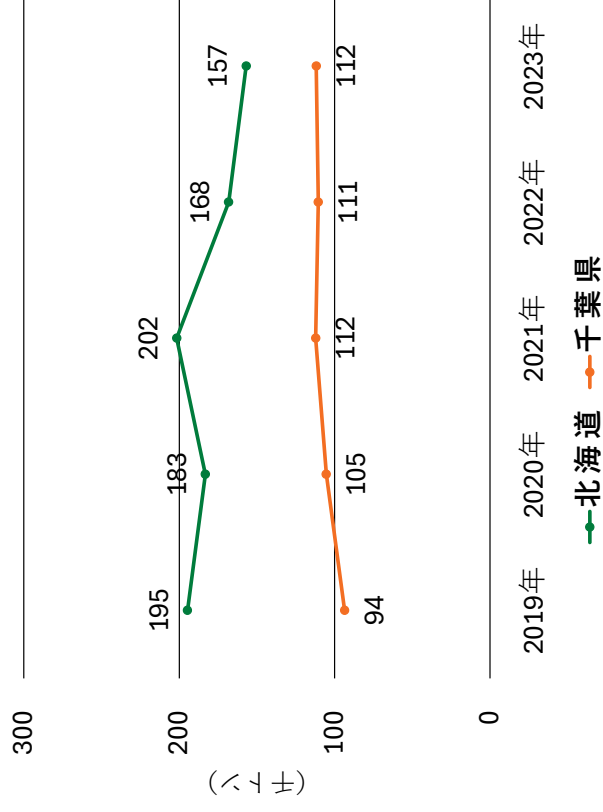
※ 出典：農畜産業振興機構「ペジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

③ にんじん

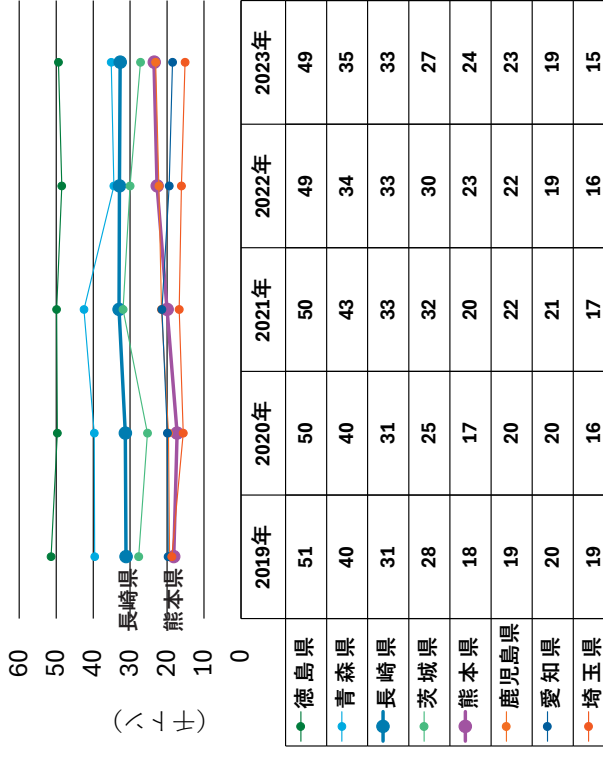
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「北海道」「千葉県」「徳島県」「青森県」「長崎県」の順となっている。直近3年においては、最上位の「北海道」は緩やかに減少傾向、次点の「千葉県」は僅かに増加傾向となっている。

3位から10位の都道府県をみると、「長崎県」「熊本県」で僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



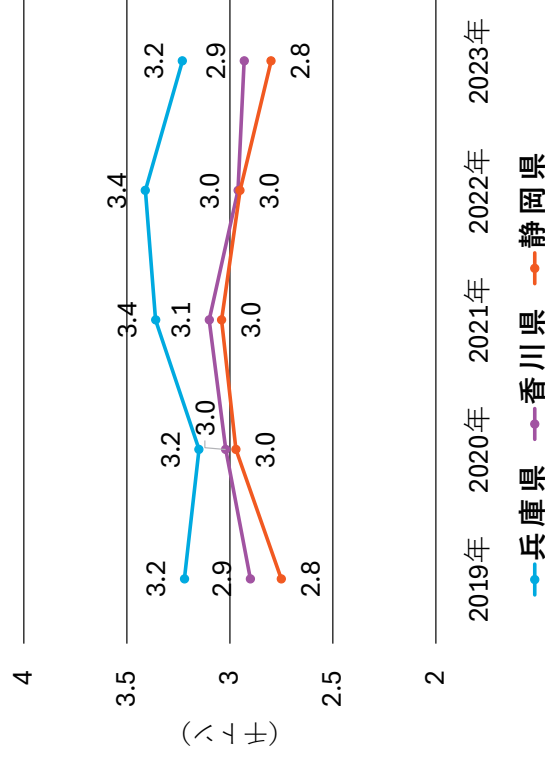
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

③ にんじん

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、明らかに増加傾向の都道府県はなく、「兵庫県」「香川県」「静岡県」では比較的維持傾向にあり、「岐阜県」「新潟県」では直近5年で1千トン規模の減少傾向となっている。

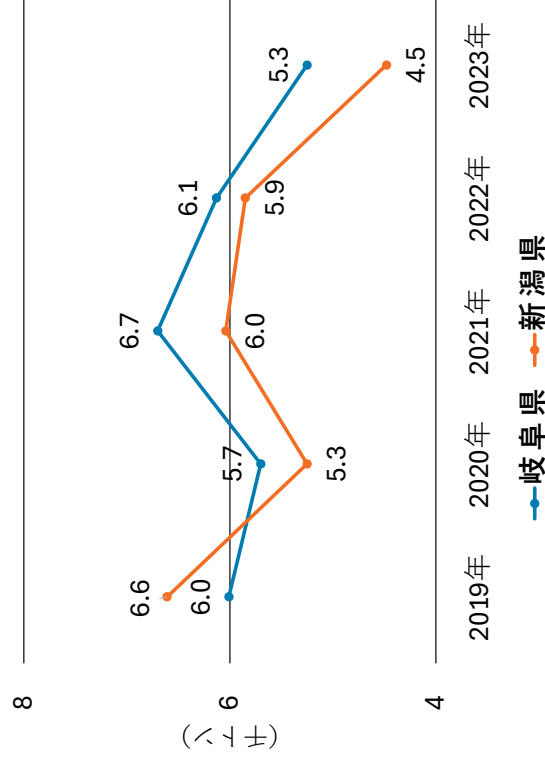
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち維持傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

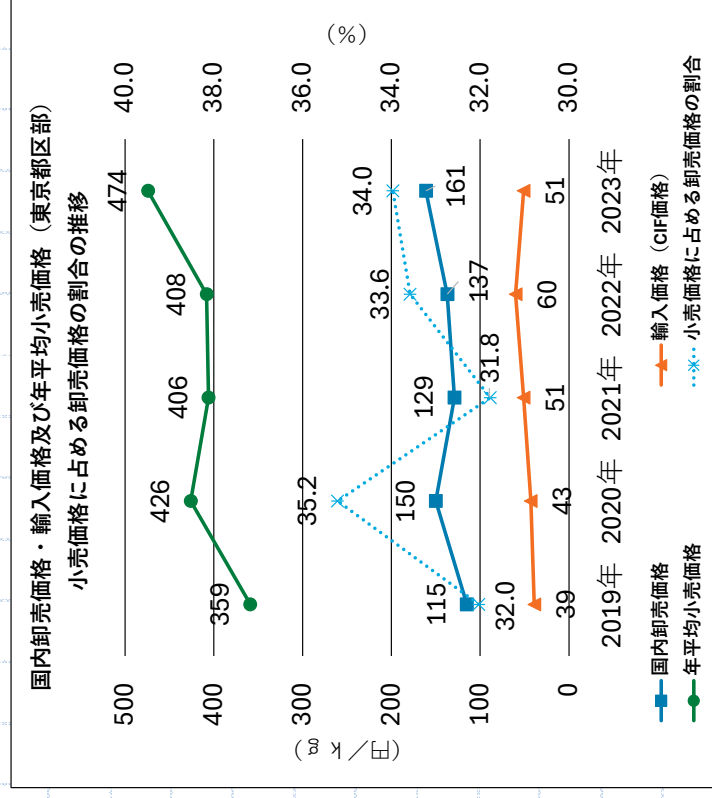
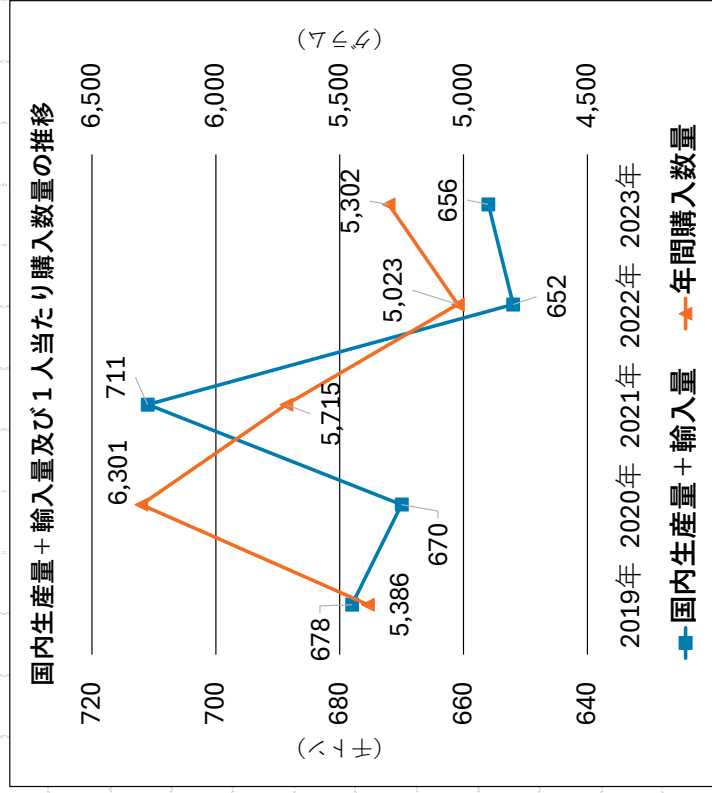


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

③ にんじん

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、2021年に一時的な増加がみられるものの、その他の年は600千トン規模に留まっている。2020年から2021年に需給の相違があるものの、その他の年は1人当たりの年間購入数量と比例傾向となっている。

価格については、概ね増加傾向にあるが、需給の相違があった2020年から2021年については小売価格に占める卸売価格の割合が減少している。



※ 出典：農畜産業振興機構「パシ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)」、速報」、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

④ えだまめ

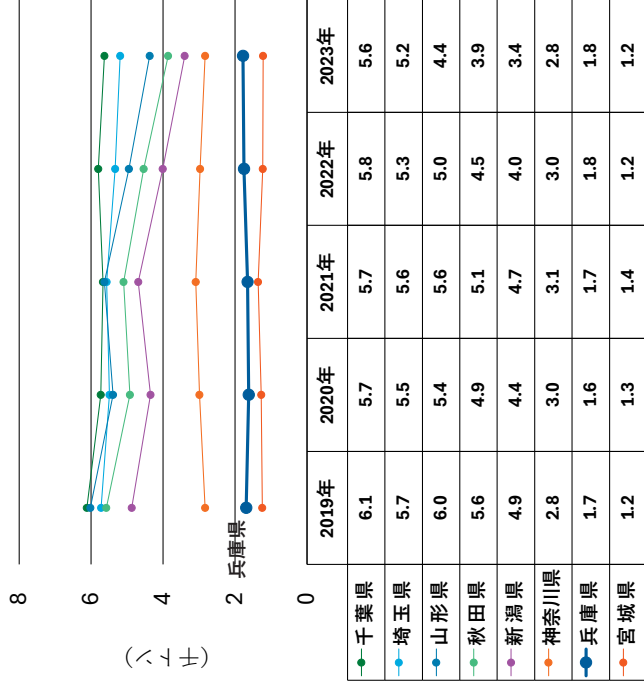
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「北海道」「群馬県」「千葉県」「埼玉県」「山形県」の順となっている。直近3年では、最上位の「北海道」は9千トン規模、次点の「群馬県」は7千トン規模で維持傾向となっており。

3位から10位の都道府県をみると、「兵庫県」で僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

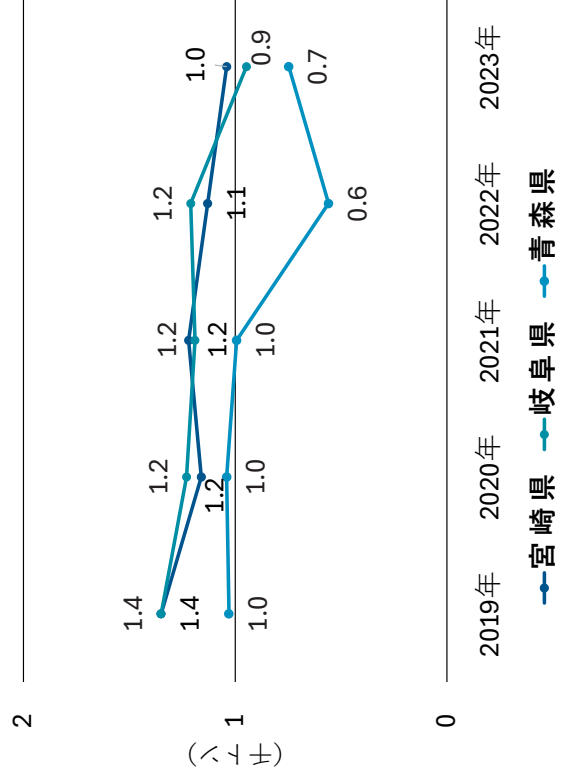
④ えだまめ

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、増加傾向の都道府県はなく、「宮崎県」「岐阜県」「青森県」では僅かに減少傾向となっている。

増加傾向の都道府県なし

都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

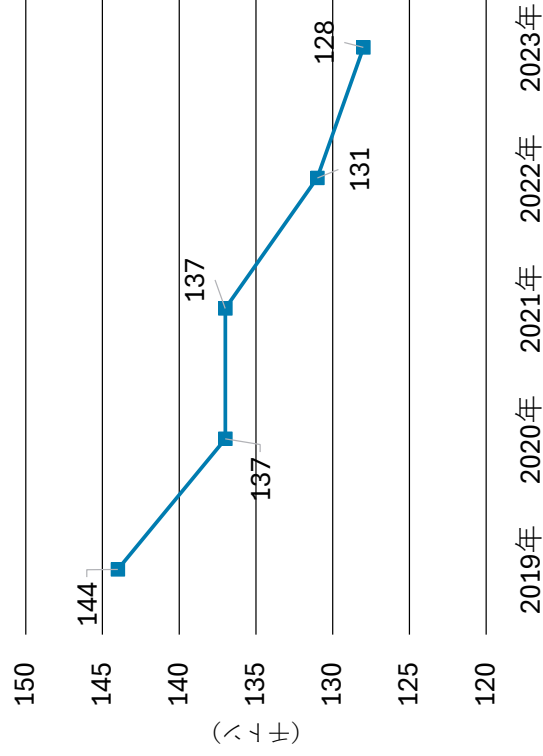


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

④ えだまめ

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、2021年を除いては年間10千トン単位で減少傾向となっている。
価格については、概ね増加傾向にあるが、小売価格に占める卸売価格の割合は減少傾向となっている。

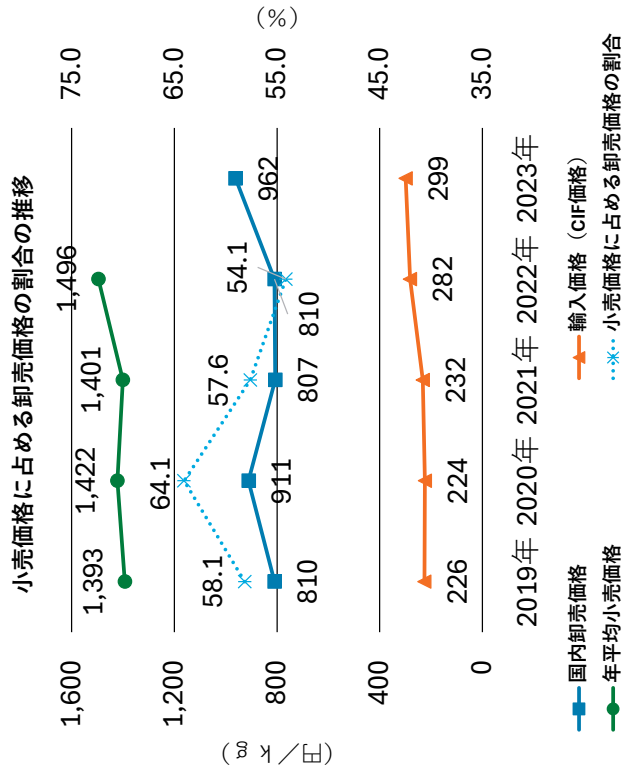
国内生産量 + 輸入量の推移



※ 「1人当たりの年間購入数量」のデータなし。

※ 出典：農畜産業振興機構「ペジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)／速報」、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格 (東京都区部)
小売価格に占める卸売価格の割合の推移



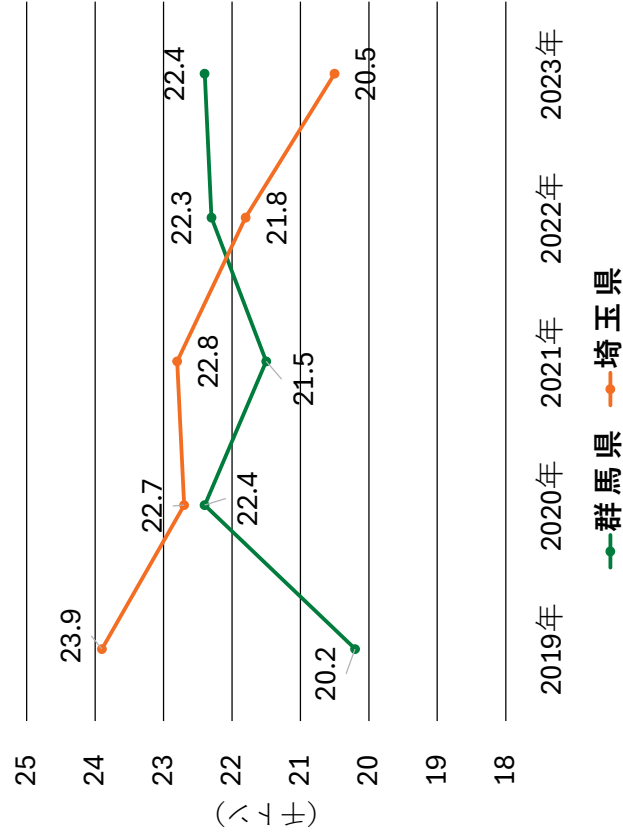
※ 2023年の「年平均小売価格」のデータなし。

⑤ ほうれんそう

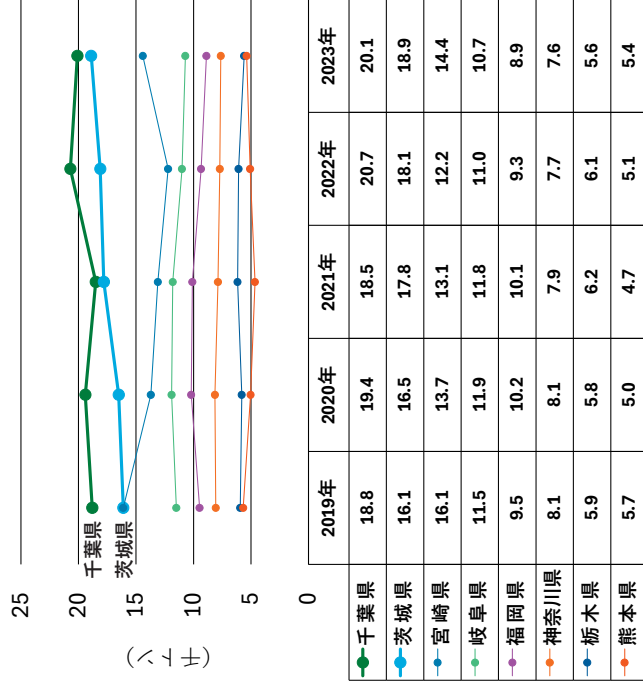
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「群馬県」「埼玉県」「千葉県」「茨城県」「宮崎県」の順となっている。直近3年においては、最上位の「群馬県」では増加傾向にあり、次点の「埼玉県」では減少傾向となっている。

3位から10位の都道府県をみると、3位の「千葉県」と4位の「茨城県」で僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

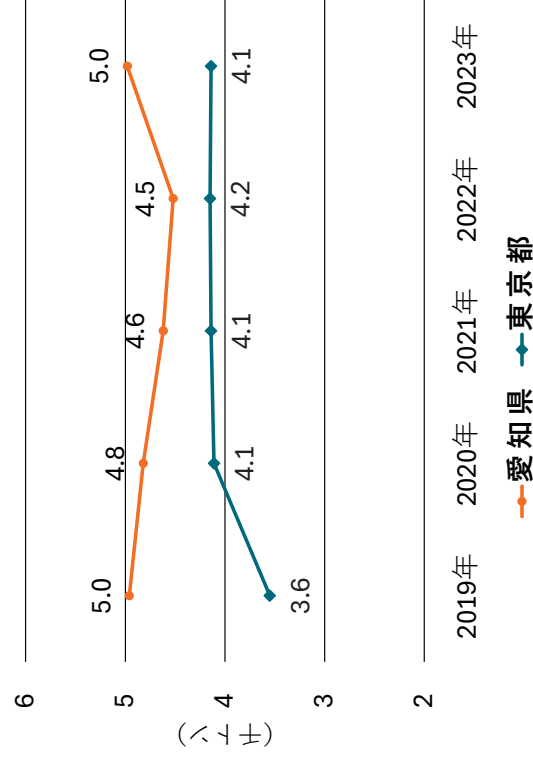
⑤ ほうれんそう

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「愛知県」が僅かな減少傾向から増加に転じており、「東京都」でも僅かに増加傾向となっている。

一方で、「北海道」は直近5年で毎年0.5千トン規模で減少傾向にあるほか、「京都府」「長野県」「奈良県」では僅かに減少傾向となっている。

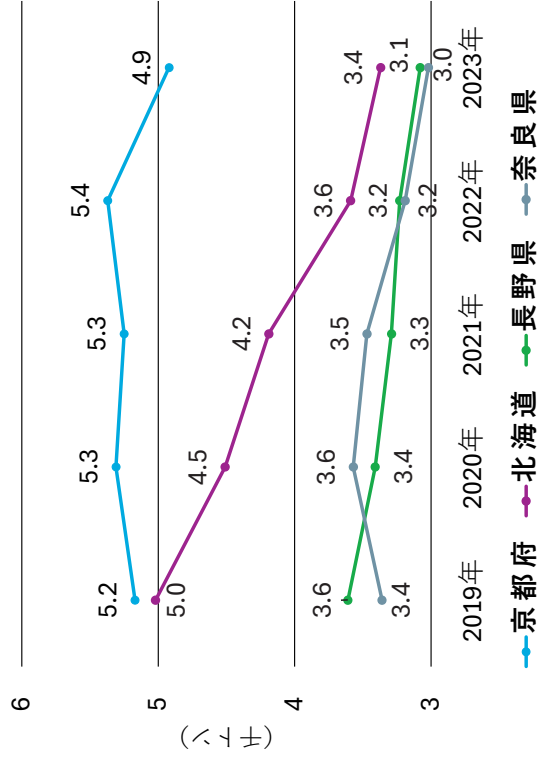
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】



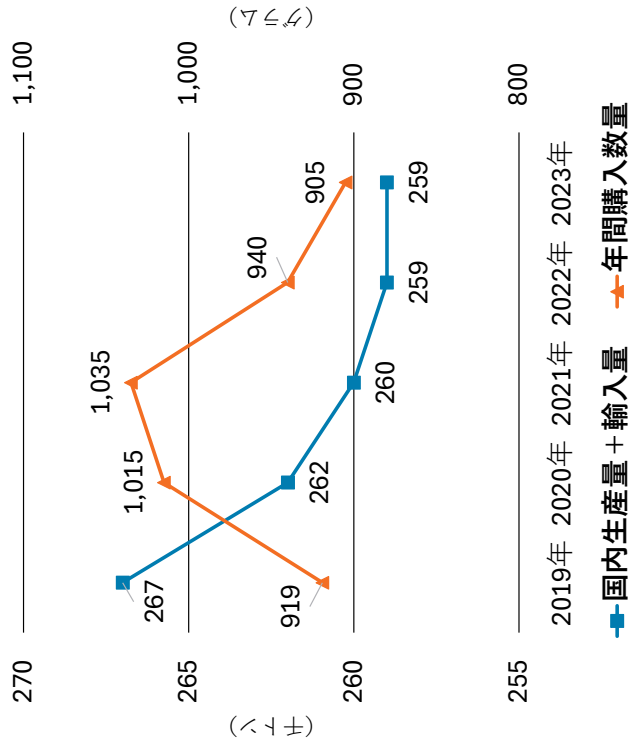
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑤ ほうれんそう

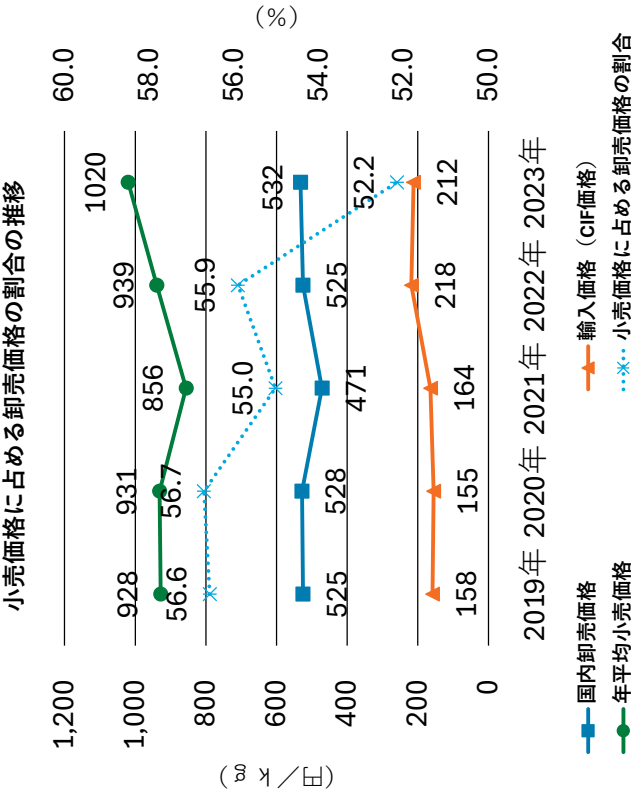
国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近5年で毎年減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も2022年以降増加から減少に転じ比例傾向にある。

価格については、概ね増加傾向にあるが、需給の相違があった2021年のほか、2023年については小売価格に占める卸売価格の割合が減少している。

国内生産量 + 輸入量及び1人当たり購入数量の推移



国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格（東京都区部）
小売価格に占める卸売価格の割合の推移



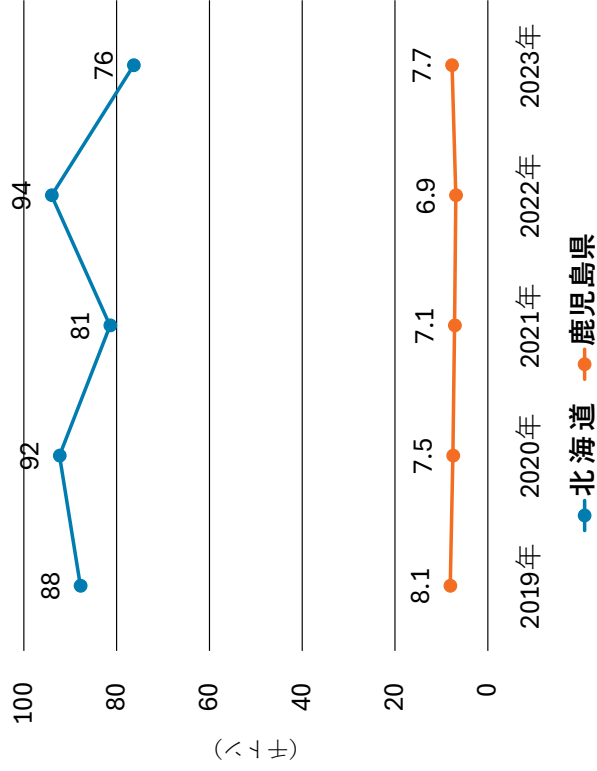
※ 出典：農畜産業振興機構「バジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く))」/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

⑥ かぼちゃ

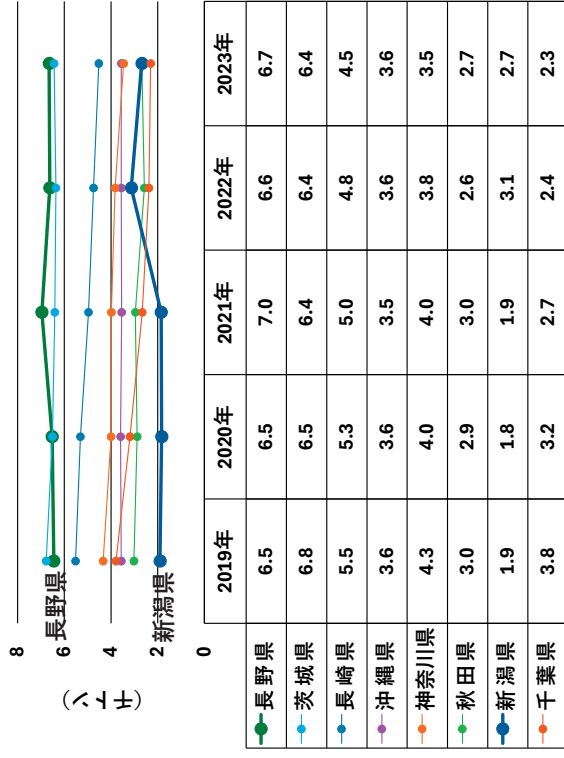
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「北海道」「鹿児島県」「長崎県」「茨城県」「長野県」「鹿児島県」「長崎県」の順となっている。直近5年においては、最上位の「北海道」で1千トン前後の増減を繰り返、次点の「鹿児島県」では概ね横ばいとなっている。

3位から10位の都道府県をみると、「長野県」「新潟県」で僅かに増加傾向となっており、「新潟県」では直近2年で1千トン規模で増加している。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

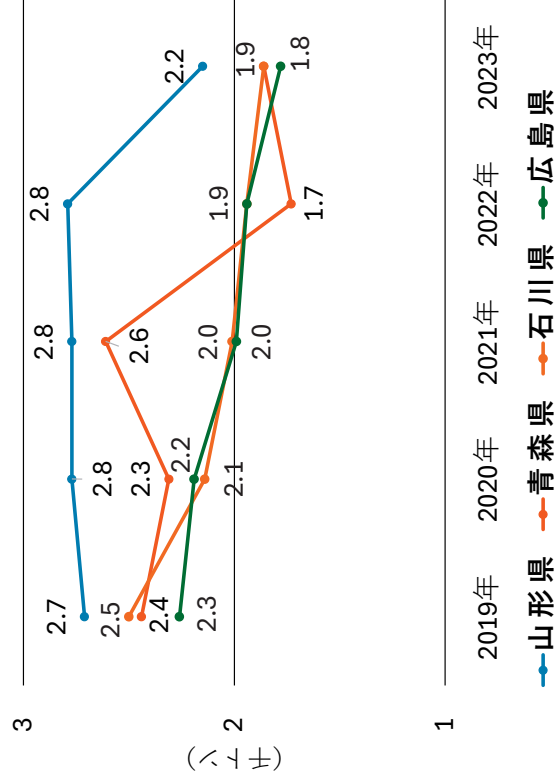
⑥ かぼちゃ

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、増加傾向の都道府県はなく、「山形県」「青森県」「石川県」「広島県」では減少傾向となっている。特に、「山形県」では2022年に、「石川県」では2021年に大きく減少している。

増加傾向の都道府県なし

都道府県別生産量（収穫量）の推移

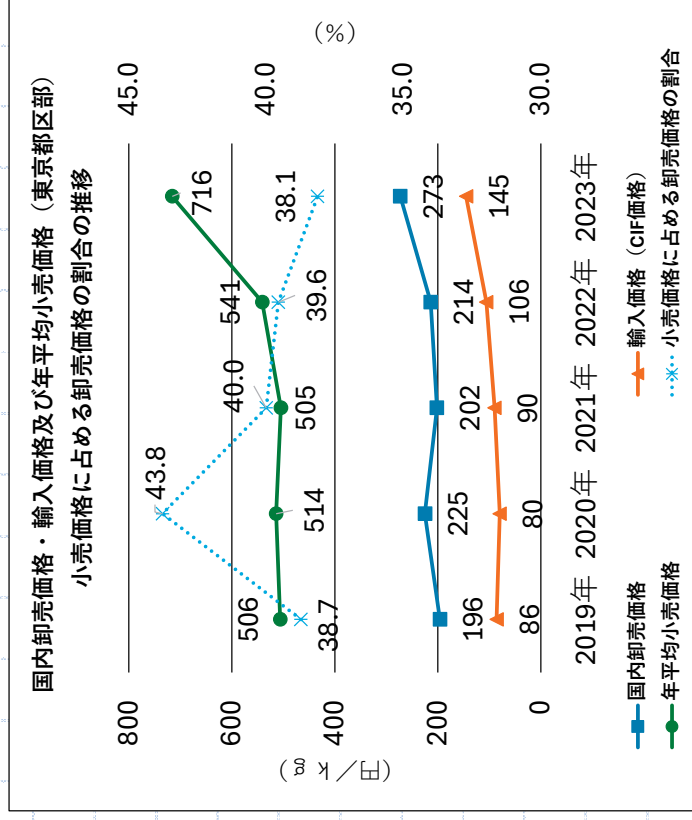
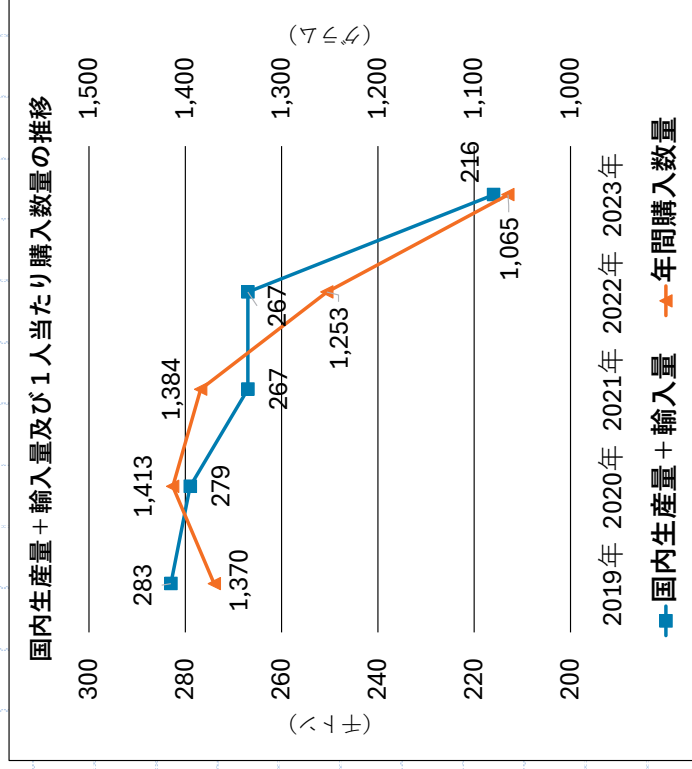
【11-20位のうち減少傾向】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑥ かぼちゃ

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近5年で減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も2021年以降増加から減少に転じ比例傾向にある。
価格については、概ね増加傾向にあるが、需給の相違があった2019年から2020年については小売価格に占める卸売価格の割合が増加している。

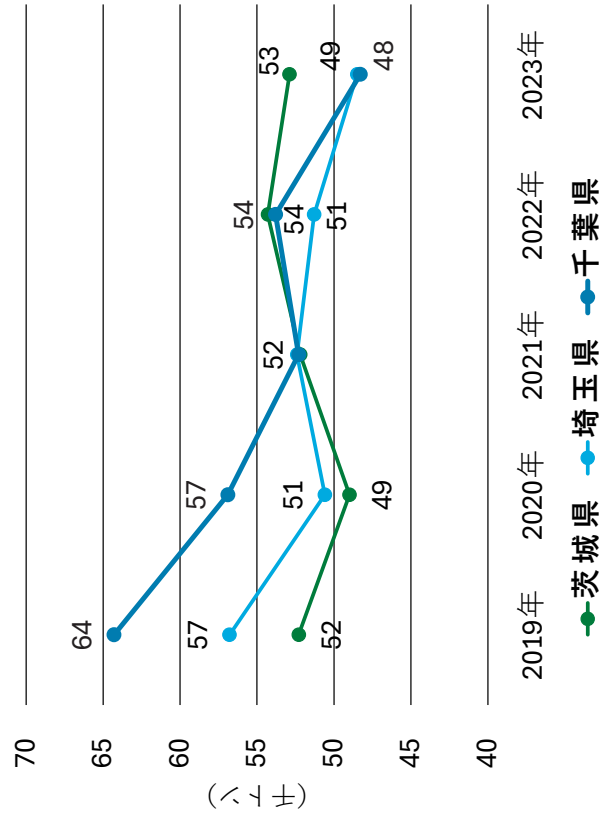


※ 出典：農畜産業振興機構「ハジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

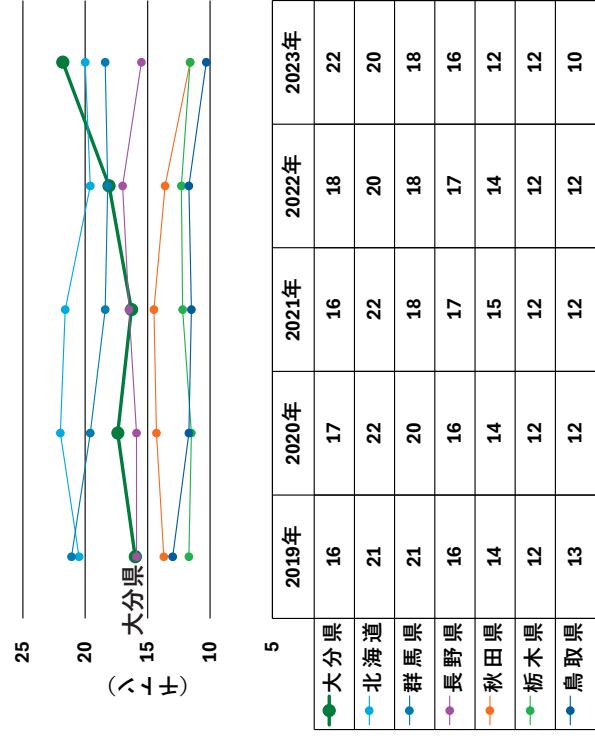
⑦ねぎ

生産量(収穫量)の多い都道府県は、「茨城県」「埼玉県」「千葉県」「北海道」「大分県」の順となっている。上位3県の直近5年においては、増加の年も存在するものの、傾向としては減少傾向となっている。4位から10位の都道府県をみると、「大分県」で増加傾向となっており、直近2年では2～4千トン規模で増加している。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-3位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【4-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

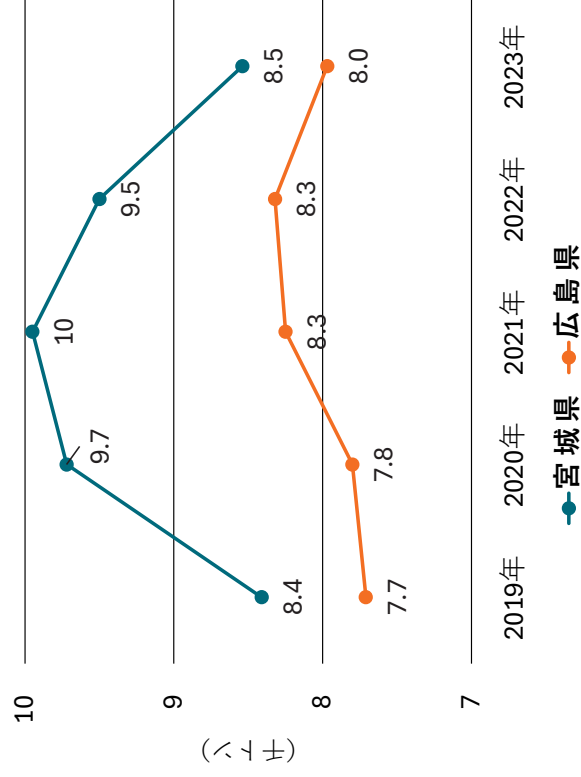
⑦ねぎ

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「宮城県」で一時増加、「広島県」で増加傾向と
なっている。

一方で、「福島県」「新潟県」では一部増加の年もあるが、「青森県」「愛知県」を含めて減少傾向にあり、
直近の2023年ではいずれも減少している。

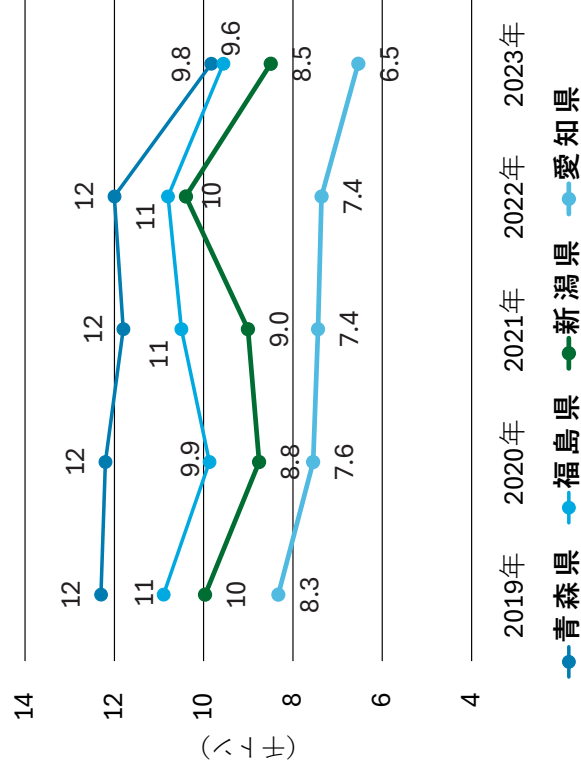
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

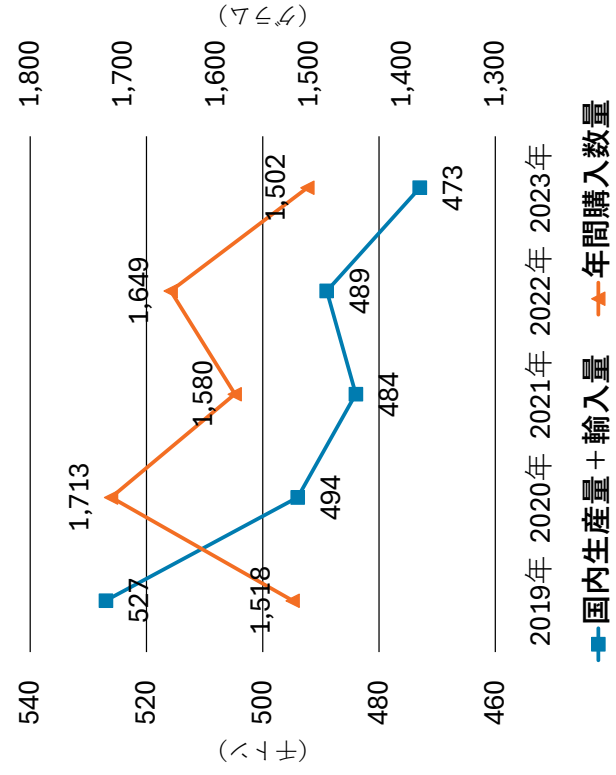


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

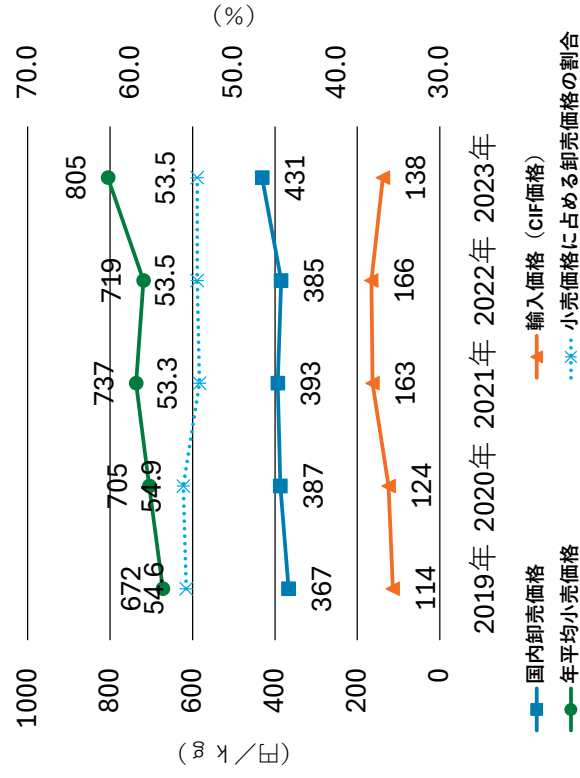
⑦ ねぎ

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近5年で2022年は増加しているものの減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も2020年以降は比例傾向にある。価格については、概ね増加傾向にあるが、小売価格に占める卸売価格の割合は概ね横ばいとなっている。

国内生産量 + 輸入量及び1人当たり購入数量の推移



国内卸売価格・輸入価格及び年平均小売価格 (東京都区部)
小売価格に占める卸売価格の割合の推移



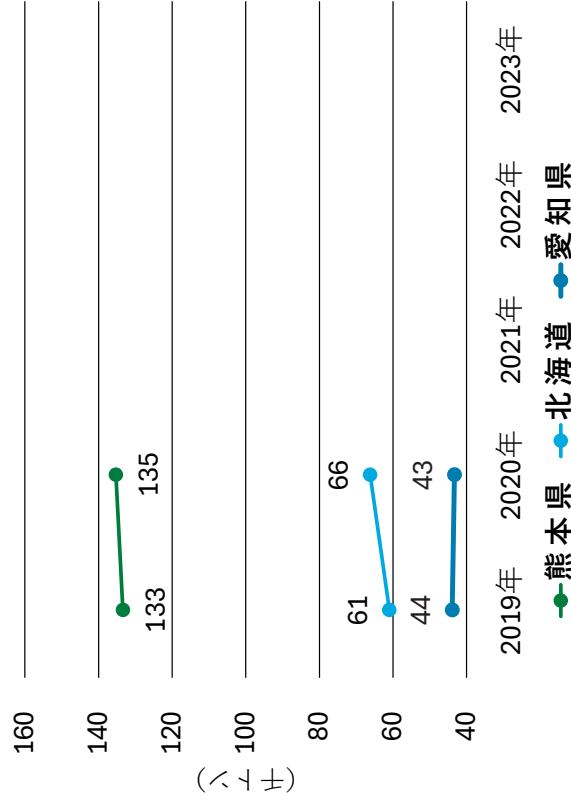
※ 出典：農畜産業振興機構「パシ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く))、速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

⑧ トマト

生産量(収穫量)の多い都道府県は、「熊本県」「北海道」「熊本県」「茨城県」「愛知県」「北海道」「栃木県」の順となっている。データが公表されている2019年、2020年の上位3県で見ると、「熊本県」は僅かに増加、「北海道」は増加、「愛知県」は僅かに減少となっている。

4位から10位の都道府県をみると、「福島県」が1千トン程度増加しているが、その他は減少している。

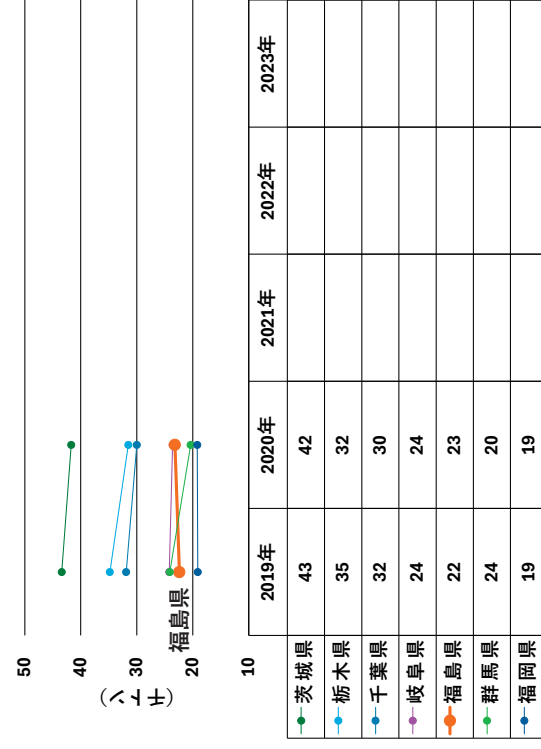
都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-3位】



※ 2021年以降のデータなし。

※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

都道府県別生産量（収穫量）の推移【4-10位】



※ 2021年以降のデータなし。

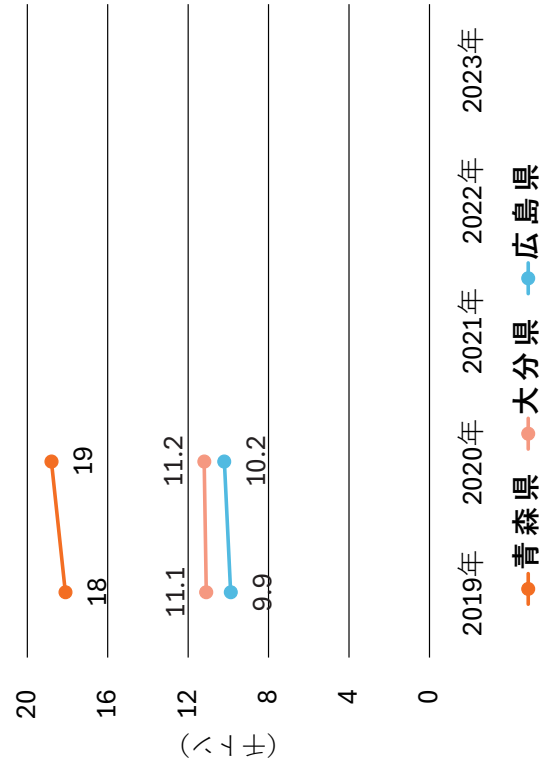
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑧ トマト

データが公表されている2019年、2020年の生産量(収穫量)11位から20位の都道府県でみると、「青森県」「大分県」「広島県」で僅かに増加している。一方で、「宮崎県」「長野県」「山形県」では減少している。

都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】

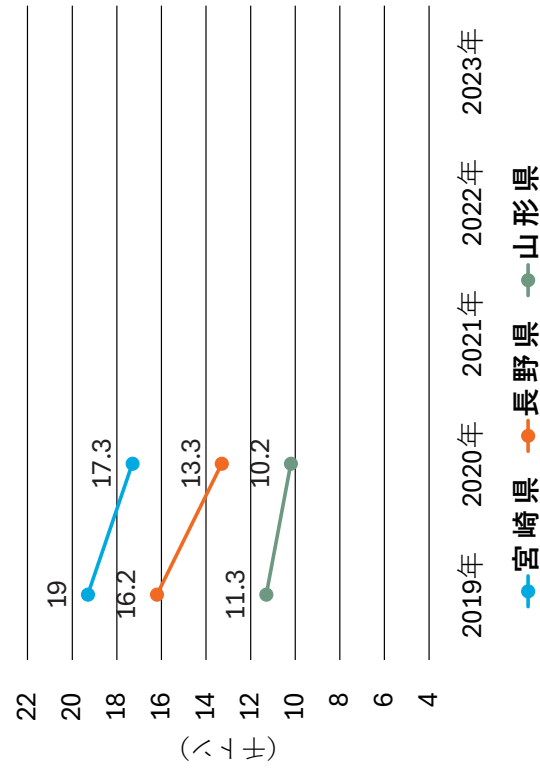


※ 2021年以降のデータなし。

※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

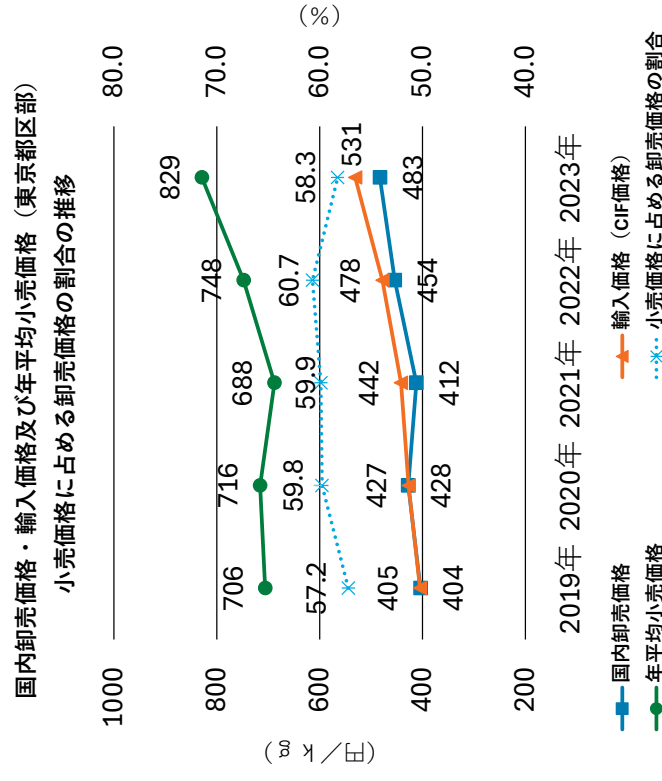
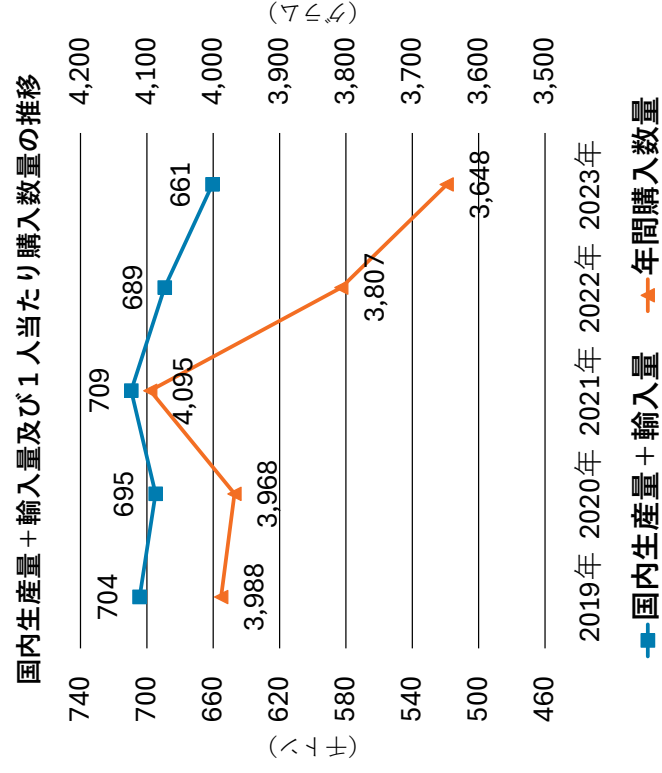


※ 2021年以降のデータなし。

※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑧ トマト

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近5年で2021年は増加しているものの減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も比例傾向にある。
価格については、増加傾向にあるが、小売価格に占める卸売価格の割合は概ね横ばいとなっている。

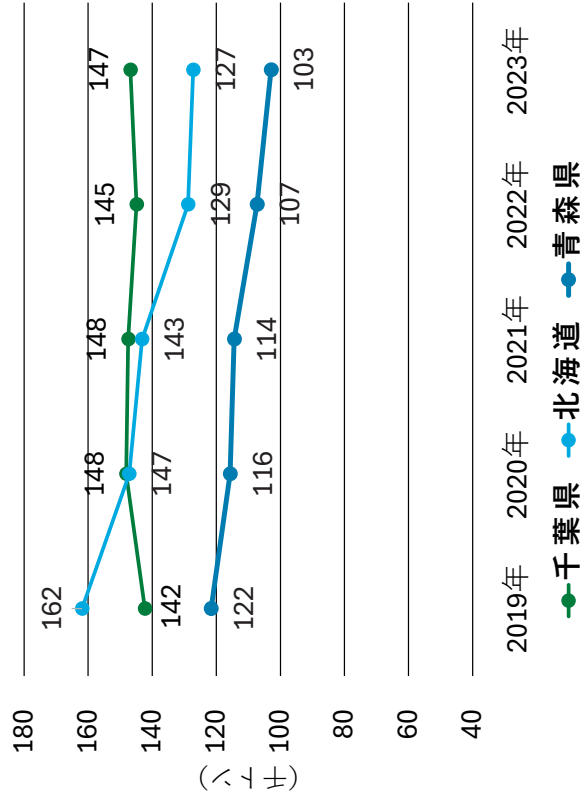


※ 出典：農畜産業振興機構「ハジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

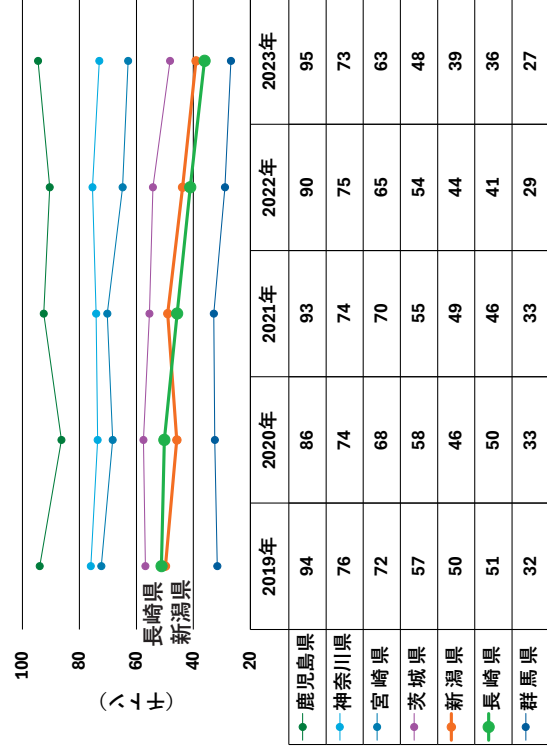
⑨ だいこん

生産量(収穫量)の多い都道府県は、「千葉県」「北海道」「青森県」「鹿児島県」「神奈川県」「神奈川県」の順となっている。上位3県で見ると、「千葉県」はわずかに増加し、「北海道」「青森県」は減少傾向となっている。
4位から10位の都道府県をみると、横ばいか減少傾向が大半で、「新潟県」「長崎県」が5年間で10千トン程度減少している。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-3位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【4-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

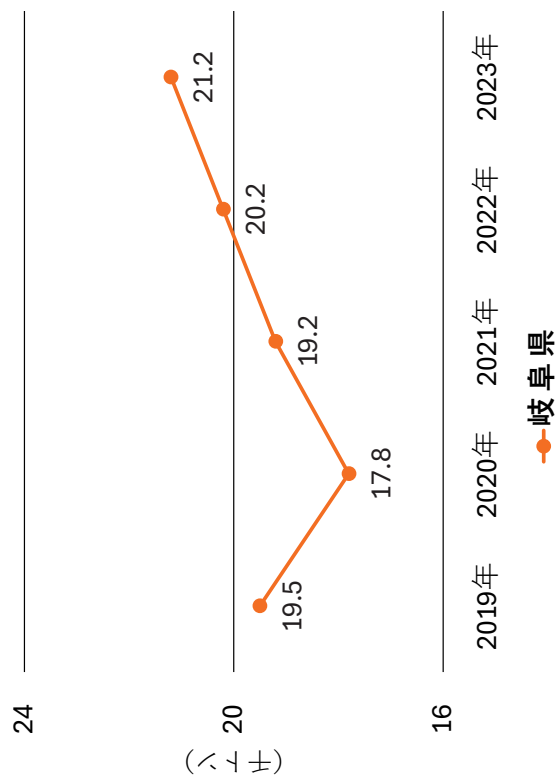
⑨ だいこん

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県で見ると、「岐阜県」が直近4年間では毎年1千トン規模で増加傾向となっている。

一方で、「福島県」では2020年以降、「長野県」「徳島県」「長野県」では直近5年間は毎年0.5～1千トン程度減少している。

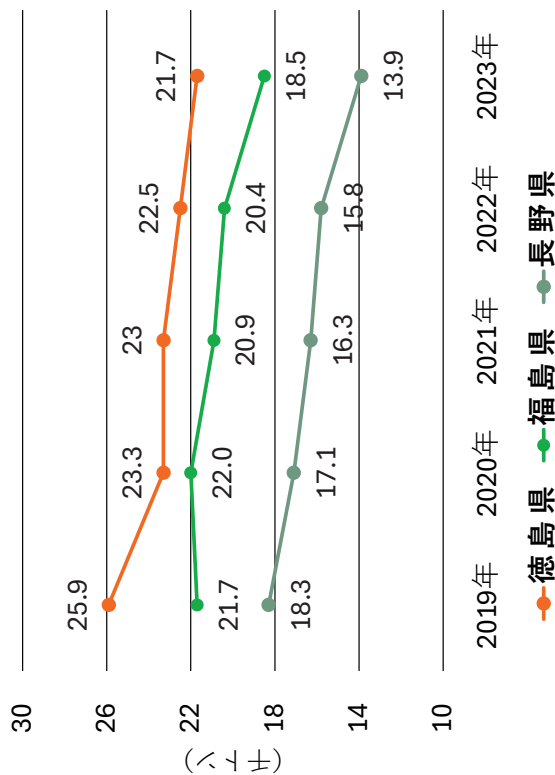
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

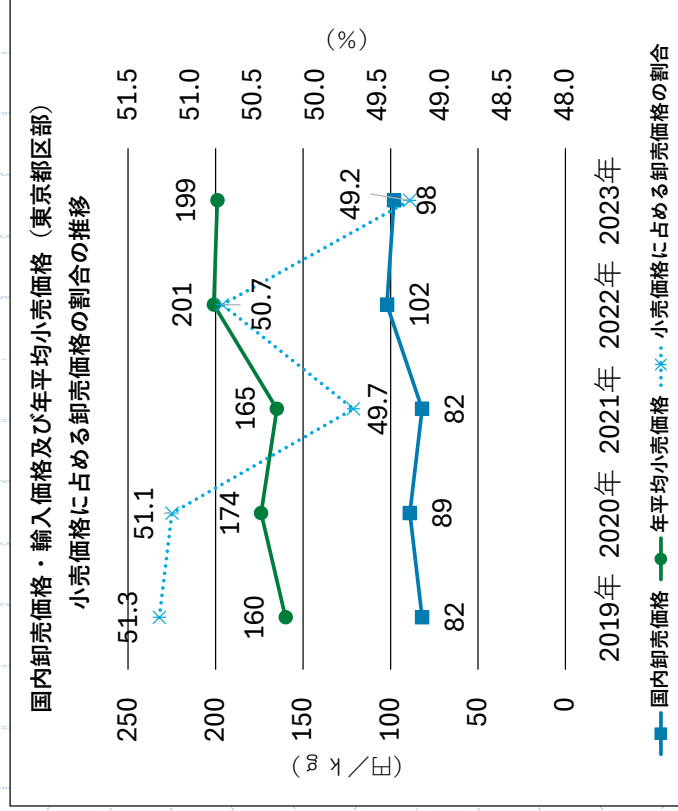
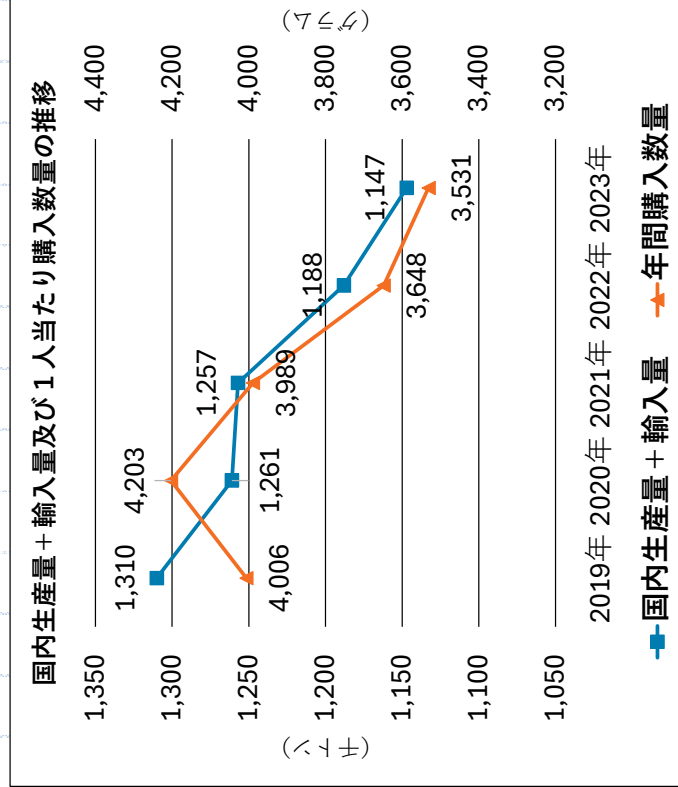
【11-20位のうち減少傾向】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑨ だいこん

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近5年間は減少傾向にあり、2021年以降は1人当たりの年間購入数量も比例傾向にある。
価格については、国内卸売価格及び年平均小売価格共に増加傾向にあるものの、小売価格に占める卸売価格の割合は増減している。

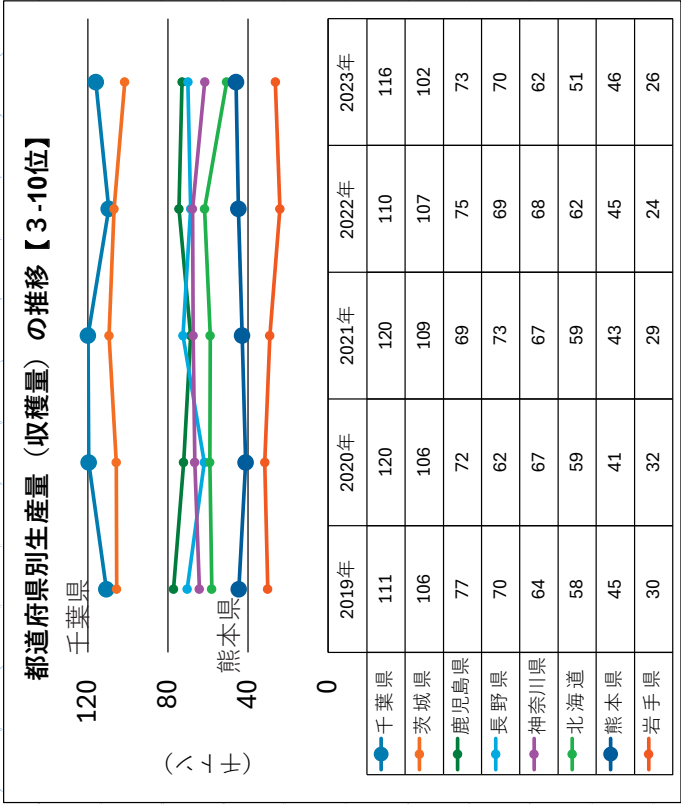
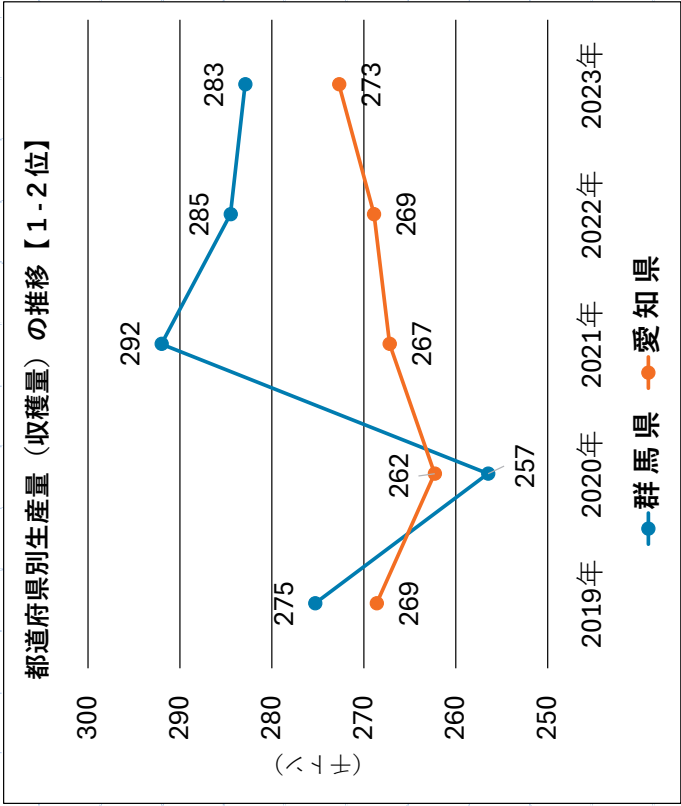


※ 出典：農畜産業振興機構「ペジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)／速報」、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)
※ 「輸入価格」のデータなし。

10 キャベツ

生産量(収穫量)の多い都道府県は、「群馬県」「愛知県」「千葉県」「茨城県」「鹿児島県」「鹿儿島県」の順となっている。直近3年においては、最上位の「群馬県」では僅かに減少傾向であり、次点の「愛知県」では増加傾向にある。

3位から10位の都道府県をみると、100千トン前後規模では「千葉県」、50千トン前後規模では「熊本県」が僅かに増加傾向となっている。



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

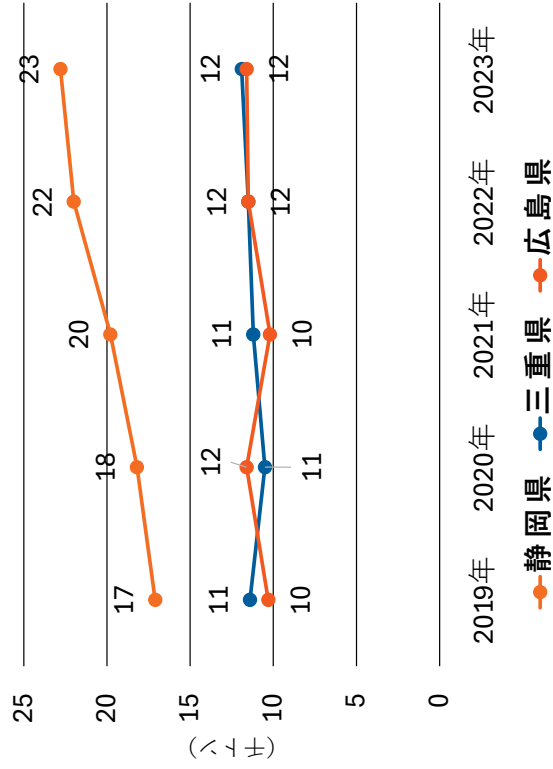
⑩ キャベツ

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「静岡県」が直近5年で毎年1～2千トン規模で増加傾向にあるほか、「三重県」「広島県」も僅かに増加傾向となっている。

一方で、「兵庫県」は直近5年で毎年1～2千トン規模で減少傾向にあり、「福岡県」「岡山県」では維持や増加の年もあるものの、傾向としては減少傾向となっている。

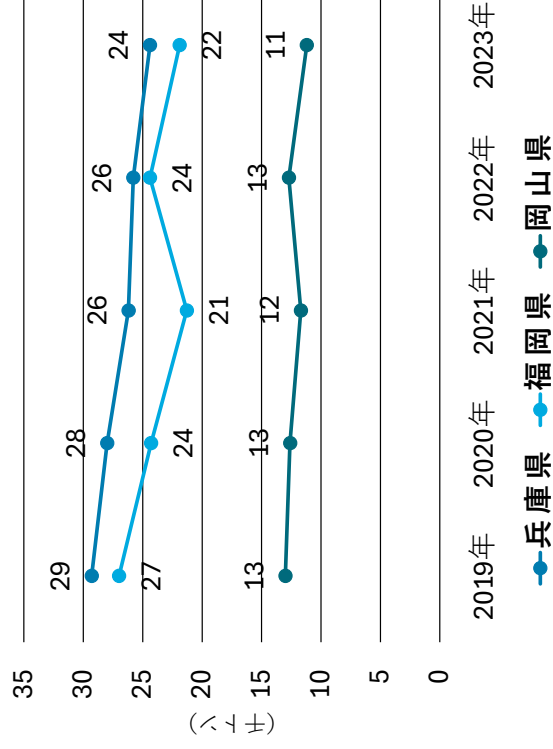
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

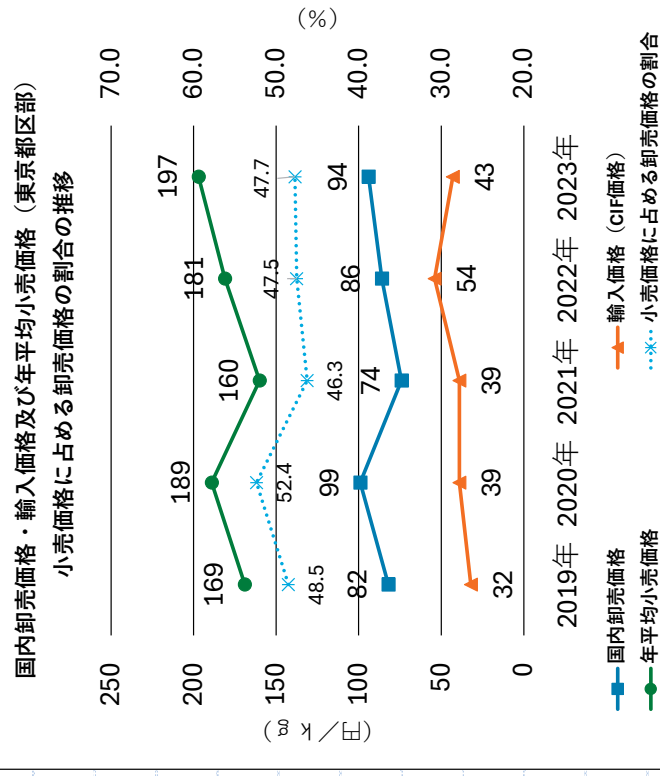
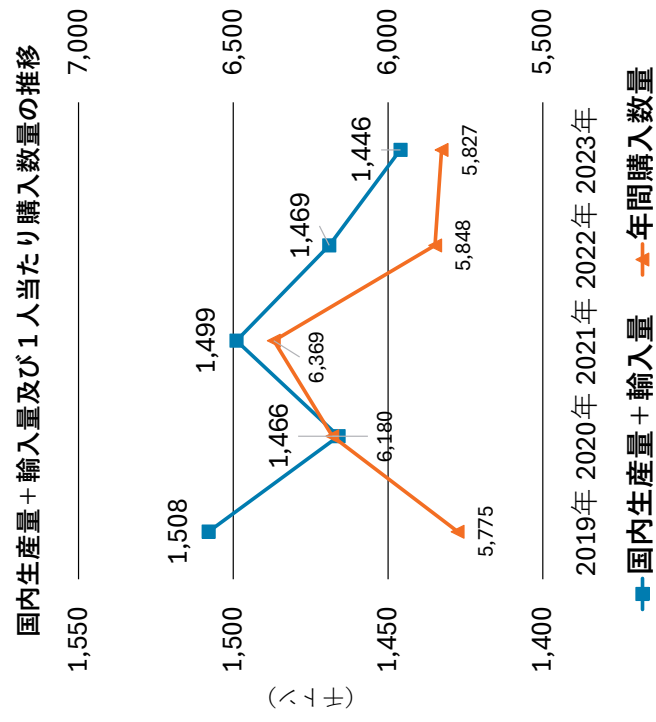


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑩ キャベツ

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近3年では減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も2019年を除いては概ね比例傾向にある。

価格については、国内卸売価格及び年平均小売価格共に直近3年で増加傾向にあるものの、小売価格に占める卸売価格の割合は小売価格ほどの増加率ではなく、輸入価格も僅かに減少している。



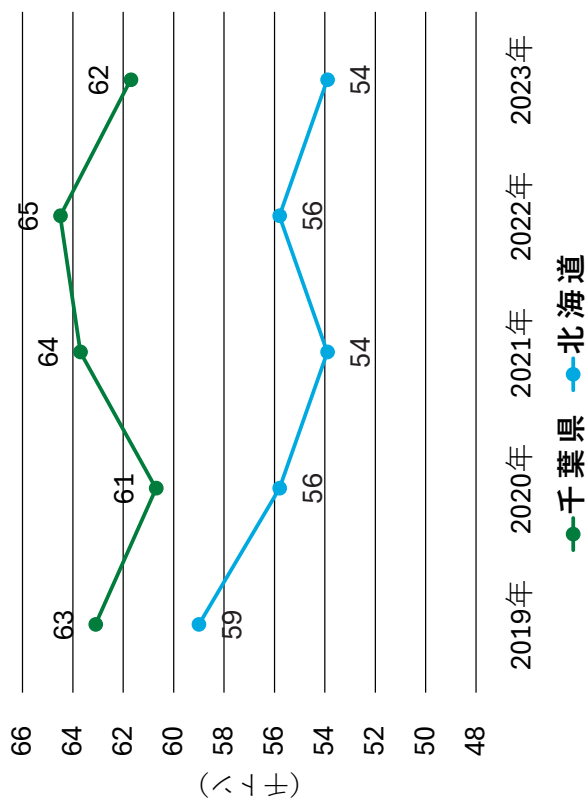
※ 出典：農畜産業振興機構「ページデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

⑪ きゅうり

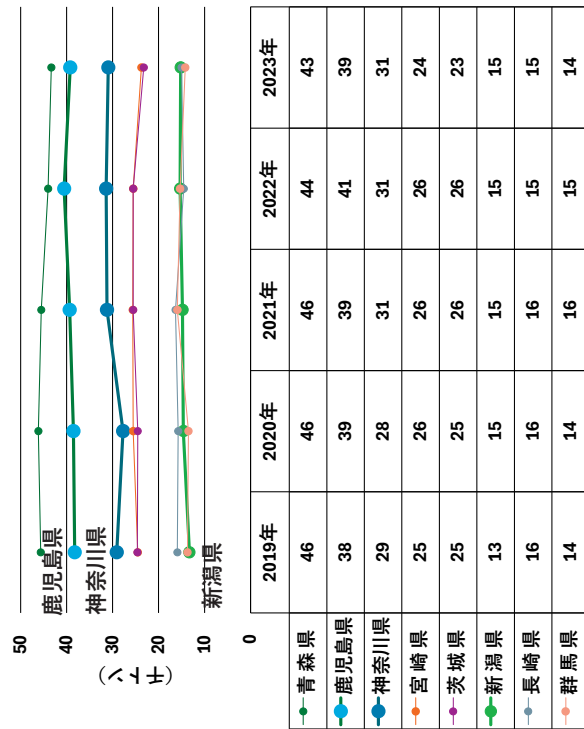
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「千葉県」「北海道」「青森県」「鹿児島県」「神奈川県」「神奈川県」の順となっている。最上位の「千葉県」、次点の「北海道」では、年により増減があるものの、直近1年では減少している。

3位から10位の都道府県をみると、40千トン前後規模では「鹿児島県」、30千トン前後規模では「神奈川県」、15千トン前後規模では「新潟県」で僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

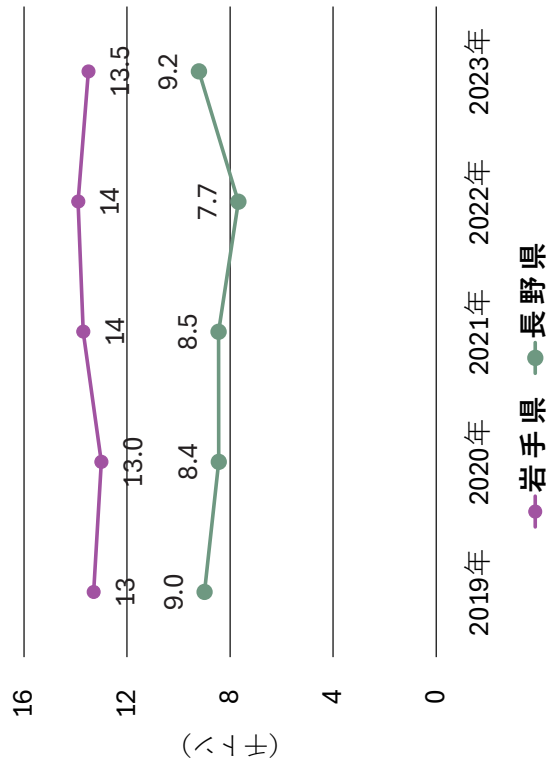
⑪ きゅうり

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「岩手県」「長野県」が横ばいもしくは僅かに増加傾向となっている。

一方で、「愛知県」「岐阜県」では直近5年で減少傾向となっている。

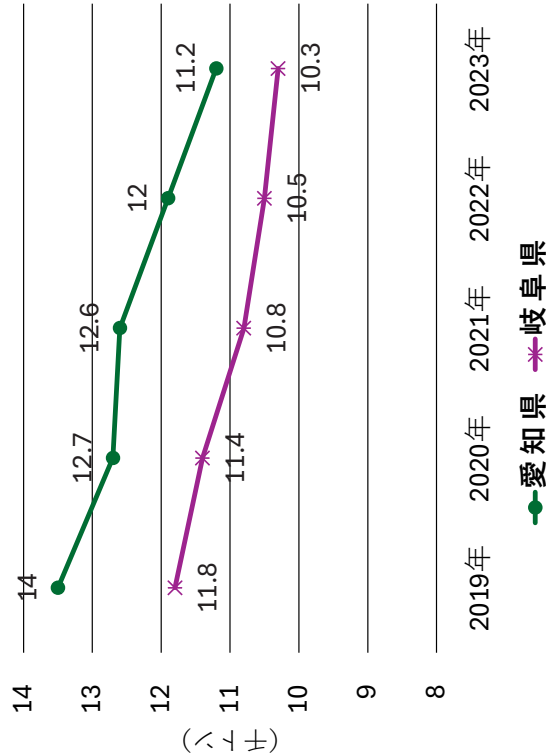
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

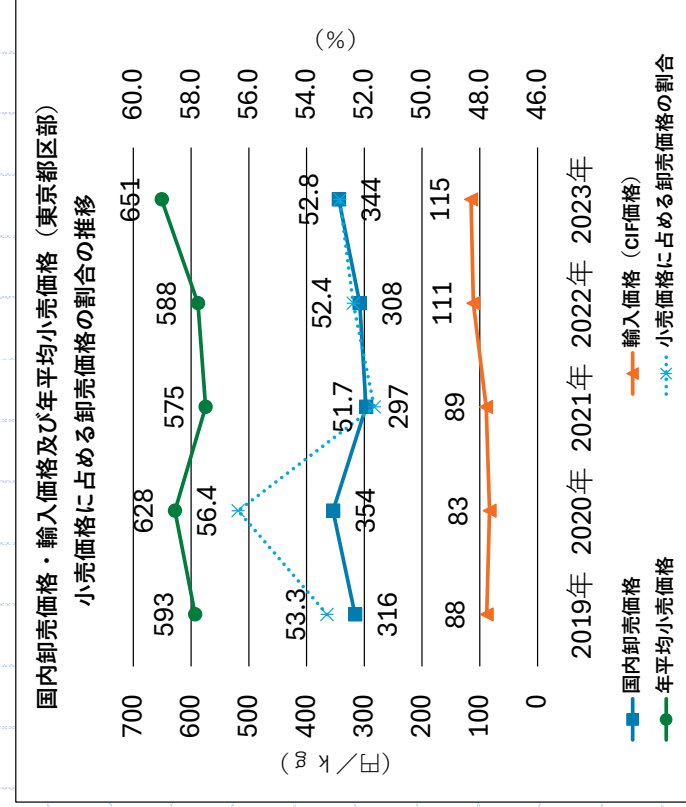
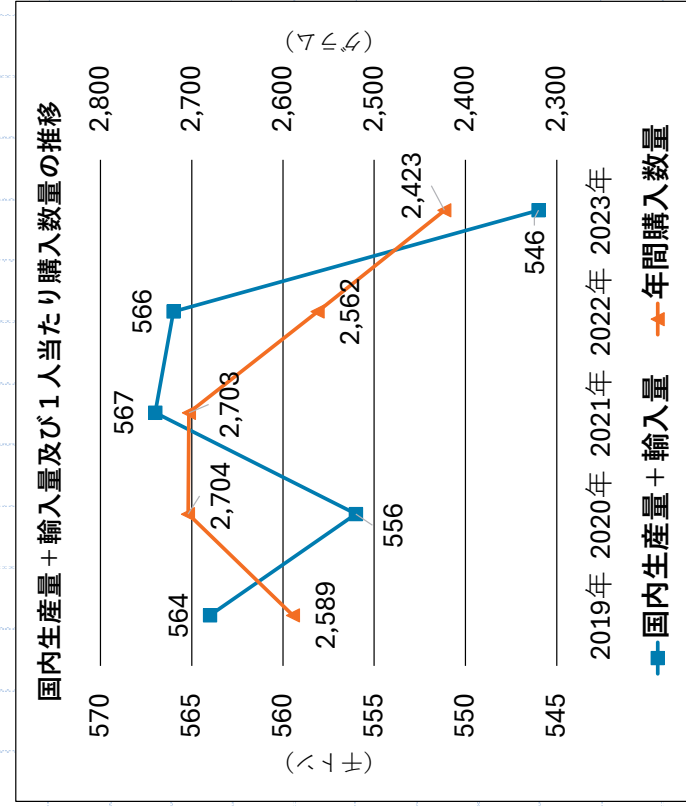


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑪ きゅうり

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、直近3年では減少傾向にあり、2021年以降は1人当たりの年間購入数量と概ね比例傾向にある。

価格については、国内卸売価格及び年平均小売価格共に、直近3年で増加傾向にあり、小売価格に占める卸売価格の割合も概ね比例傾向にある。



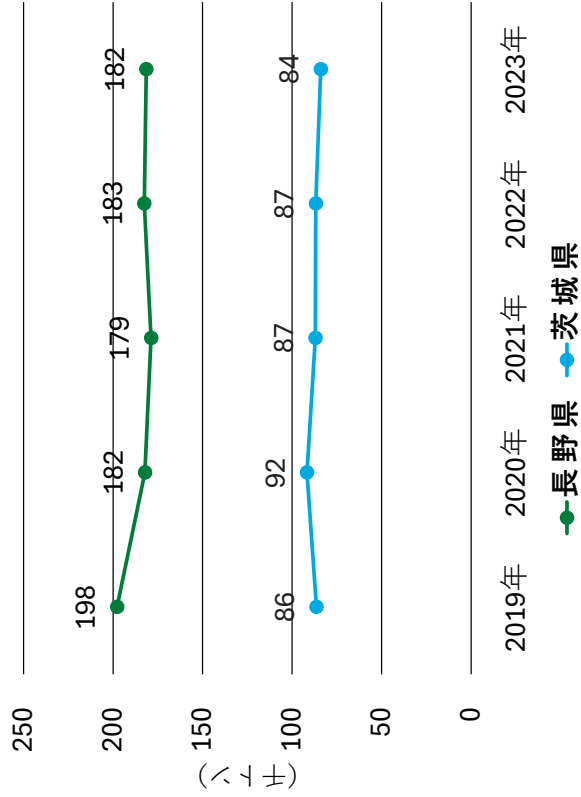
※ 出典：農畜産業振興機構「パシ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)速報」、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

⑫ レタス

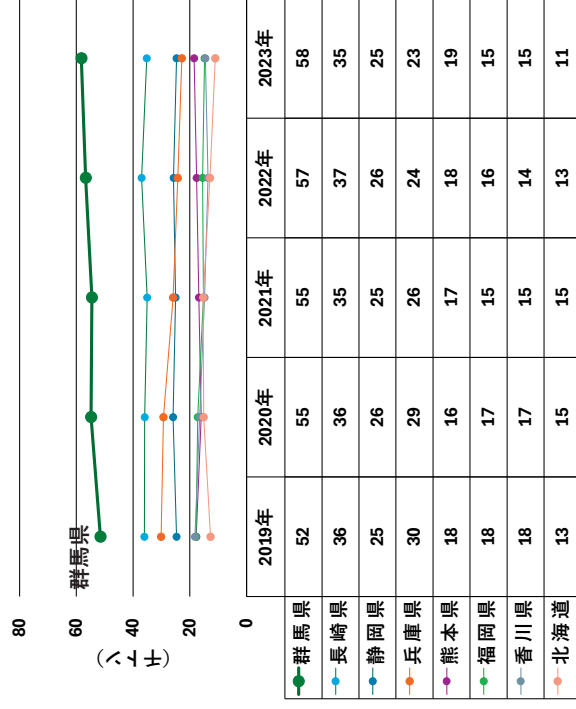
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「長野県」「茨城県」「群馬県」「長崎県」「静岡県」の順となっている。最上位の「長野県」、次点の「茨城県」共に、直近5年では概ね横ばい傾向となっている。

3位から10位の都道府県をみると、「群馬県」が55千トン前後規模で僅かに増加傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



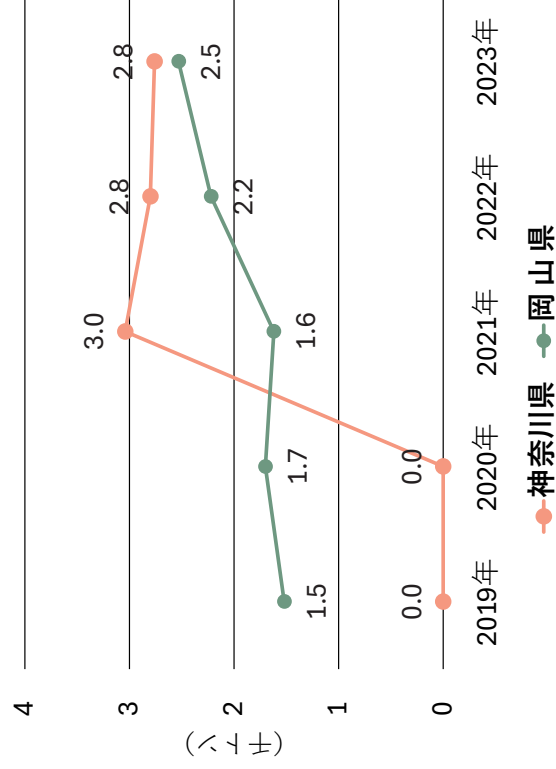
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑫ レタス

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「神奈川県」が2021年に増加以降横ばい傾向のほか、「岡山県」が2021年以降、増加傾向となっている。
一方で、「岩手県」「栃木県」は2021年以降、減少傾向となっている。

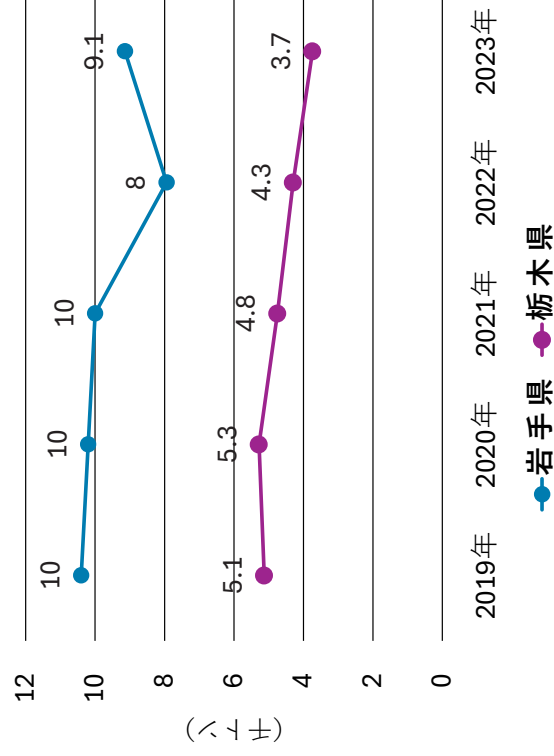
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

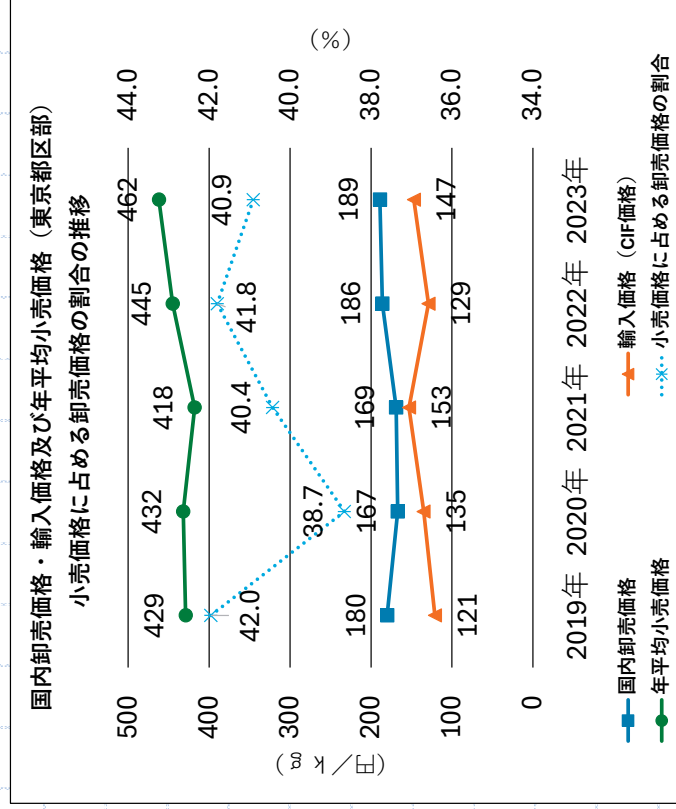
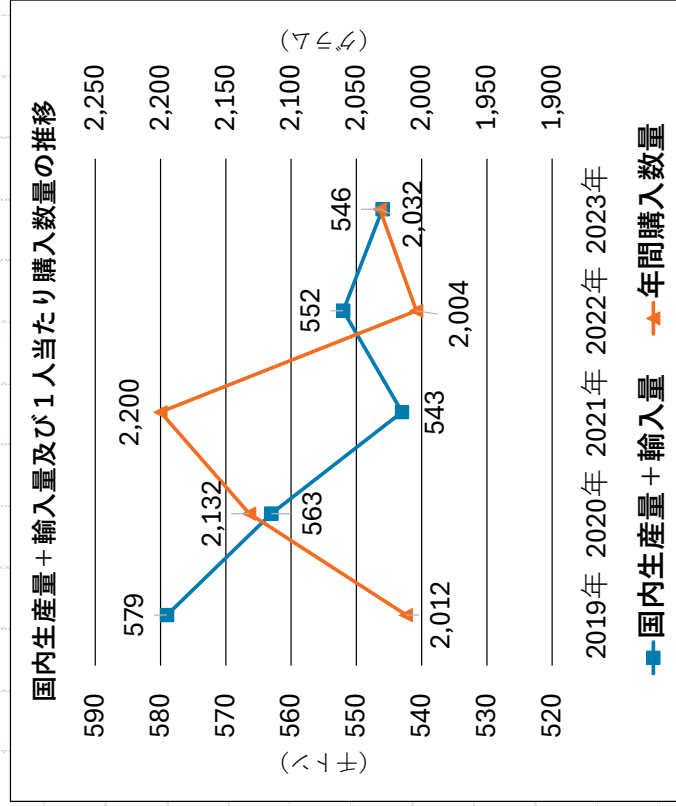
【11-20位のうち減少傾向】



※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑫ レタス

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、2021年までの減少以降は横ばいの傾向にあり、1人当たりの年間購入数量は2022年の減少以降は横ばい傾向となっている。
価格については、国内卸売価格及び年平均小売価格共に直近3年で増加傾向にあり、小売価格に占める卸売価格の割合は2020年以降増加傾向となっている。



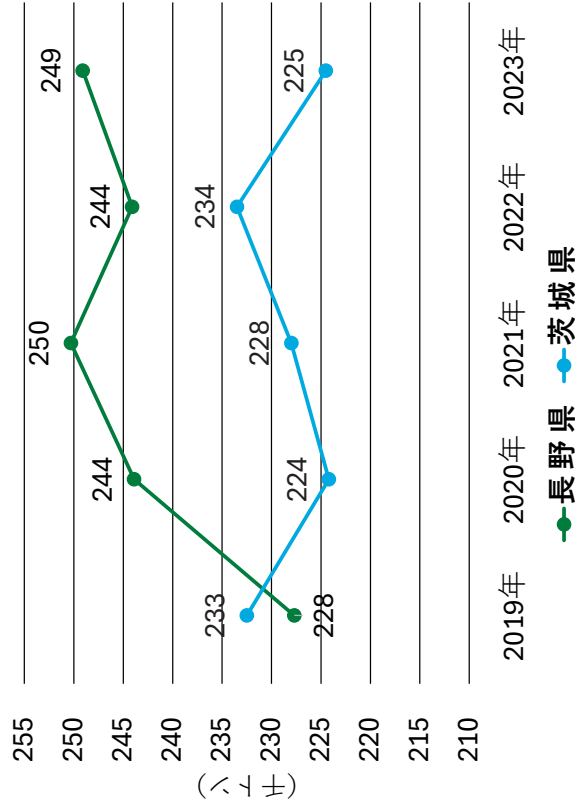
※ 出典：農畜産業振興機構「ページデータベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告」(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)/速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)

⑬ はくさい

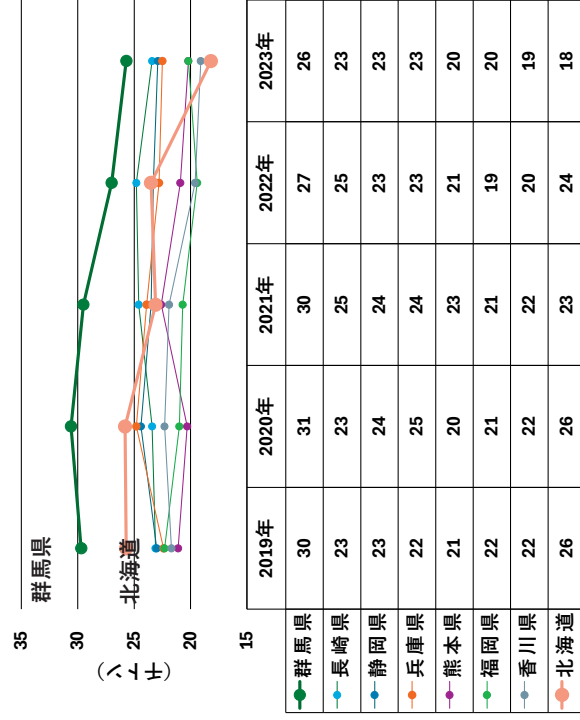
生産量(収穫量)の多い都道府県は、「長野県」「茨城県」「長野県」「群馬県」「静岡県」「長崎県」「静岡県」の順となっている。最上位の「長野県」は直近5年で増加傾向、次点の「茨城県」は横ばい傾向だが、直近1年では減少している。

3位から10位の都道府県をみると、「群馬県」が30千トン前後規模で、「北海道」が25千トン前後規模で減少傾向となっている。

都道府県別生産量（収穫量）の推移【1-2位】



都道府県別生産量（収穫量）の推移【3-10位】



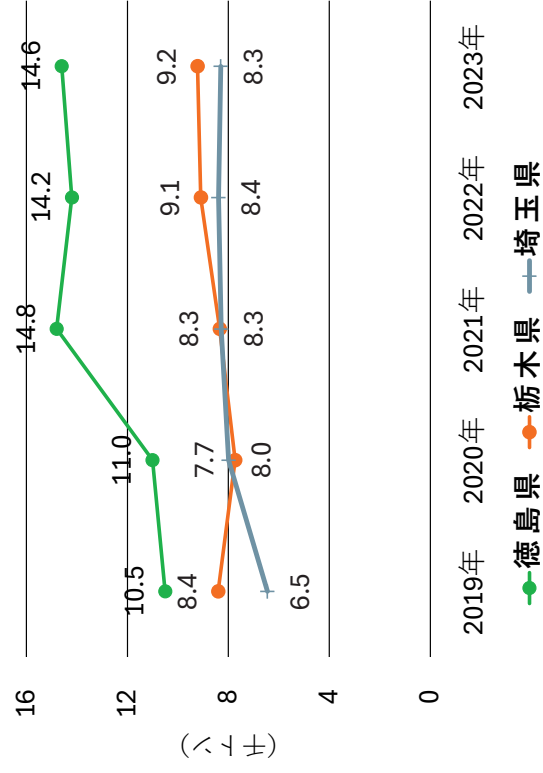
※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑬ はくさい

生産量(収穫量)11位から20位の都道府県をみると、「徳島県」が増加傾向にあるほか、「栃木県」「埼玉県」も僅かに増加傾向となっている。
一方で、「岩手県」は2020年以降、減少傾向となっている。

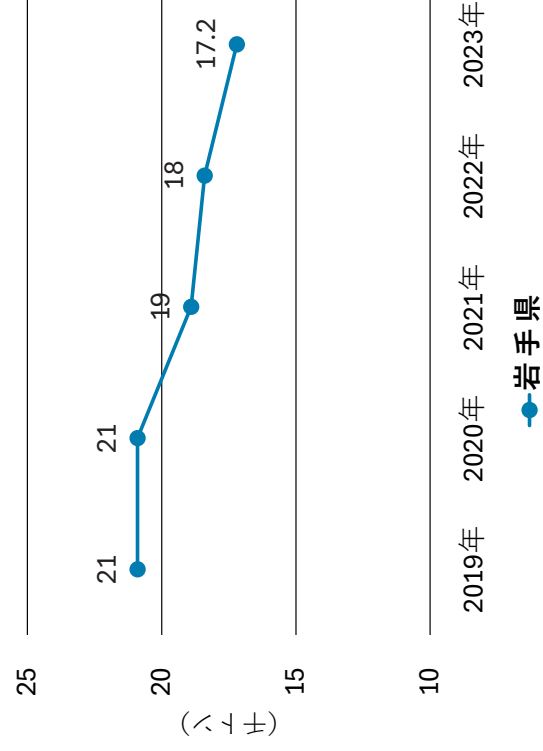
都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち増加傾向】



都道府県別生産量（収穫量）の推移

【11-20位のうち減少傾向】

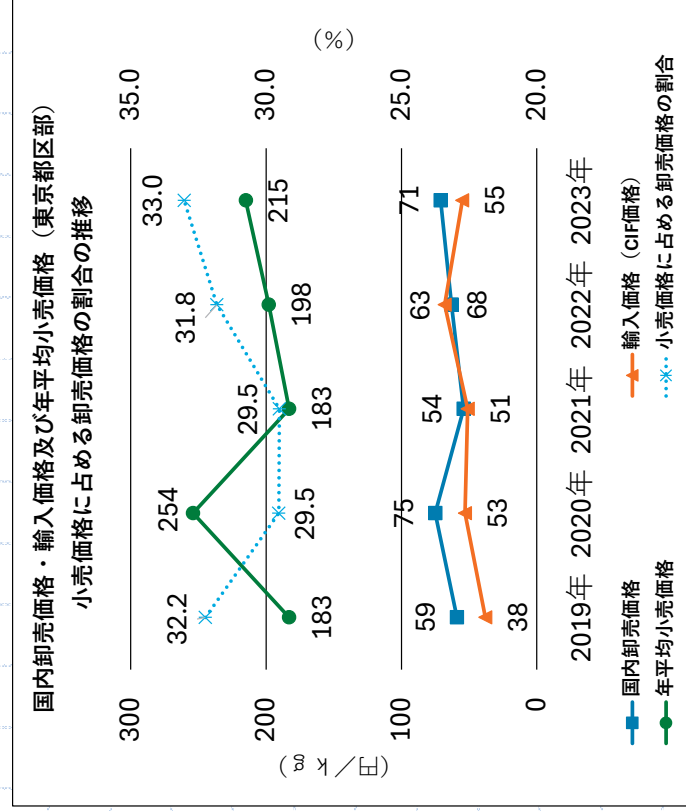
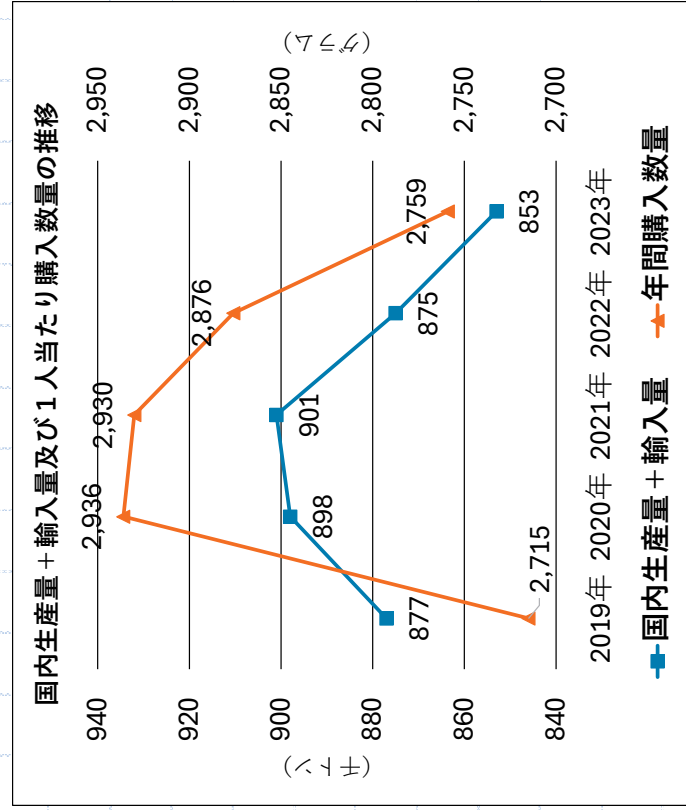


※ 出典：農畜産業振興機構「ベジ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」)

⑬ はくさい

国内生産量(収穫量)と輸入量を足した国内流通量をみると、2021年以降減少傾向にあり、1人当たりの年間購入数量も2020年以降減少傾向となっている。

価格については、国内卸売価格及び年平均小売価格共に2021年に一度減少するも、それ以降は増加傾向にあり、小売価格に占める卸売価格の割合も2021年以降増加傾向となっている。



※ 出典：農畜産業振興機構「パシ探データベース」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計等」、財務省「貿易統計」、総務省「家計調査報告(二人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)」、速報)、農林水産省「青果物卸売市場調査」、総務省「小売物価統計調査」)